



主は 是れ誰そ

薪流会総裁 大井 際断



去る三月九日の薪流会二十周年記念講演会では、役員並びに実行委員の御尽力によって、六百人もの聴衆を浜松駅前のホテルに集め、小出裕章、佐高 信という御二方の大先生をお迎えして、「いまを生きるいのち・明日を生きるいのち ― 反原発をあきらめない ― というテーマでお話し頂いた。誠に有り難い極みであった。

わが方広寺御開山無門元遷禪師の示衆に次のように云う。

語を寄す。今時学道の者、袈裟下に人身を失することなかれ。

四大仮に成ず、主は是れ誰そ。依然として問著すれば

本 部
〒616-8035
京都市右京区花園妙心寺町53
養徳院内 横江 桃國

発 行
〒509-0301
岐阜県加茂郡川辺町下麻生1998
大雄寺内 大野 祥雲

編 集
〒430-0838
静岡県浜松市南区鼠野町48
龍泉寺内 薬師寺 良晋

薪流会ホームページ
<http://www.shinryukai.jp/>

印 刷
〒505-0021
岐阜県美濃加茂市森山町1-1-34
有限会社 永田印刷

目 次

「主は 是れ誰そ」 総 裁 大井 際断	1
ご挨拶 ― 名誉会長 横江 桃國	2
二十周年記念講演会 ― 講師 小出 裕章	4
二十周年記念講演会 ― 講師 佐高 信	18
二十周年記念事業報告	28
平成二十四年度東北大震災支援事業報告	33
平成二十四年度 研修会これらの支援活動について	34
浜松支部・原発被災地支援協賛金報告	40
義援金報告	41
会計決算報告	42

人の知るなし。
只、放逸を將つて
空しく過ごすこと莫れ。
眼光落地の時を識取せよ。

薪流会の「下化衆生」は、先の講演会に於いて大きな成果を遂げた。それは、会員各位のたゆまぬ上求菩提の精進あつてのことであると思う。

二十周年を終えて、我々は更に新たななる一步を各自が主人公となつて進めなければならない。

今こそ、原点に立ち返り、「更に参ぜよ三十年」の気概をもつての活躍を期待するものである。

薪流会二十周年記念講演会

ご挨拶



薪流会名誉会長

横 江 桃 國

本日は、薪流会発足二十周年記念講演会に、斯くも多くの皆さまにお参り頂きまして、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

弊会は、臨済宗の僧侶を中心としたメンバーで構成している会でありまして、社会貢献活動を行っております。

十八年前の阪神淡路大震災、一昨年の東日本大震災には、微力ながら炊き出しを始めとして、救援活動を行ってまいりました。一昨年の東日本大震災に有っては、戦後最大規模の大震災、大津波によつて、多くの人々の尊い生命が犠牲となり、又、未曾有の大被害をもたらしました。其の復旧・復興には、二年が経つ今日にあつても、遅々として進んでおりません。

もちろん、廃炉作業も除染作業も進んでおりません。

しかし乍ら、その中で「未来永劫」に涉つても、復旧不可能な大問題があります。その大問題とは言うまでも無く、福島第一原発の爆発による放射能汚染問題であります。放射能が如何に人類にとつて、限り無き最悪の物質であるかは、広島・長崎での原子爆弾投下という地獄を見た日本人が、世界唯一の被爆国、国民として、その危険性を体験しているにも拘わらず、福島第一原発爆発事故に遭つて、改めて「放射能」の恐ろしさを思い知ることになったのです。

其の原子力発電による電力がクリーン・エネルギーだと主張する人々が、今だに多数おられることには、驚きを通り越し、開いた口

が塞がらないと言わざるには居れません。

人体に与える「放射能」の影響は、その放射能物質の種類の違いに依じて、半減期という言葉で表現されているのは、皆さんも良く御存知の事と思います。それは言葉の通り、半減するだけで、消滅するものではありません。又、半減期の年数の長短に関係無く、有害性は強烈であり、人体に悪影響を間違ひなく与えるのが「放射能」であります。

因みに、比較的半減期の短い「セシウム137」、「ヨウ素131」、「ストロンチウム90」などを、微量でも体内被爆すると、それは体内で濃縮されて、特に「肺」、「生殖器」に発癌する恐ろしい放射能なのです。

それとは対極の最も半減期の長いと言われている「プルトニウム239」は、二万四千年であり、「ウラン238」に至つては、四十五億年とも言われております。

世界で一番初めに原爆を製造し、それを広島と長崎で使したアメリカが、二〇〇九年二月に政

府発表として、高レベルの放射能廃棄物処理には百万年間、管理・監視しなければならないとしているのです。

地球上に人類が誕生したのが約五十万年前で、人間が文明・文化を築き始めて、たかだか四、五千年前であります。その営々とした歴史を、イトモ簡単に壊滅させるのが「放射能」なのです。

此の様に原子力の利用は、人類にとつて、パンドラの箱の蓋を開ける行為に他なりません。

にも拘わらず、原子力発電は絶対に必要だと思ひ込んでいる宗教者も一部ながらおられるのです。情け無いかな、原子力発電推進に同調荷担してこられたのです。

皆さんも良く御存知の、福井県敦賀の原発です。その原子炉には、仏様の名前が付けられているのです。「もんじゅ」と「ふげん」です。これは釈迦三尊の脇侍である、「文殊菩薩」と「普賢菩薩」であります。我々仏教者（僧）からすれば、甚だ迷惑千万であります。冒涇に均しい命名だと言わねばなりません。その原子炉の「も

んじゅ」を原子力研究開発機構と関西電力は、「夢の原子炉」として宣伝してきた。イワク因縁付きの原子炉なのです。

それは「高速増殖炉」と言いまして、核兵器のプルトニウム製造炉としてスタートしたものです。難しい話は省きます。後ほど、小出先生からお話があるかと思っています。要するに、その原子炉は「原子爆弾製造炉」であり、四千年以上も電力「エネルギー」を賄えると言われている「炉」なのです。

しかし、アメリカにおいては、一九五五年二月の昔に炉心溶融事故を起こして以来、開発を断念したものであり、その後、イギリス・ドイツ・フランス・ロシアの各国で重大な事故が続発し、「悪夢の原子炉」となりはててしまったもののなのです。

このような最悪な「原子炉」に、全日本仏教会の巨大教団二組織の高僧が、日本原子力研究開発機構、関西電力の経営者トップから、その名前を付ける相談を受けたときに、文殊菩薩の名前を冠することに異義を表されなかったのか！同

じ仏教僧として、誠に恥じ入るばかりであります。

本来、「文殊菩薩」は佛の知（般若）を象徴する菩薩であります。端的に言って、真理を明らかにし、悟りを開く働きのことです。正に慈悲をもって人々に樂を与える菩薩様なのであります。其の真逆である原子力発電事故がもたらす放射能汚染問題を、仏教僧が無知識・無認識・無関心であつてはならないと痛感する次第であります。

後で司会者の方よりご紹介があるかと存じますが、本日の講師であられます両先生について、少しだけ話をさせて頂きます。

はじめに、小出裕章先生ですが、さすが、先生は国家権力をはじめとして、原子力問題に拘わる御用学者の先生方の一切の圧力に屈することなく、自分自身の信念に基づき、原子力発電が如何に国民生活を脅かすもののかを解き明かしておられます。又、学者としての出世などを省みず、常に国民目線で原子力問題を研究されておられる姿勢は、「高尚潔白」であり、

まさに文殊菩薩さながらの先生であると敬服しているところであります。

次に佐高信先生ですが、政治問題をはじめとして、社会問題全般に涉つて、鋭い洞察力と豊富な知識に基づき、何者も恐れること無く、真実を国民に知らせ、啓発しておられる生き様は、評論家としての「真骨頂」そのものであります。

『朝まで生テレビ』などという番組での司会者などは、口先ばかりで信がなく、言動不一致の無節操極まりない評論家であります。が、佐高先生は「信念堅固」、「言動一致」の人であり、真の評論家魂を持った人物だと思っております。今日の日本社会にあつては、代表的な警鐘者のお一人だと思っております次第であります。

最後になりましたが、本日の講演のテーマが、なぜ「反原発」・「脱原発」なのかと申しますと、こんにちの日本は、将に「存亡の機」・「存亡の秋」だからであります。

「今を生きるいのち・明日を生きるいのち」に、密接且つ深刻に

係わってきます。

日本列島いたるところに活断層が走り、地震大国である日本に、此処まで多くの「原発」が必要なのか？東日本大震災から二年の今日、改めて考えていただきたいのです。

御当地、浜松は近いうちには東海地震が間違いなく来ると言われております。そして近隣には浜岡原発があります。この後の両先生の講演をお聴き頂きまして、なぜ「反原発」・「脱原発」なのかを、共に考えてまいりたいと思います。

挨拶が長くなりました事をお詫び申し上げます。本会からの挨拶を締めくくることが致します。御清聴誠にありがとうございます。御座居ました。



周年記念講演会

於／オークラアクトシティホテル浜松

いのち 反原発をあきらめない。 生きるいのち

講 師

小 出 裕 章 氏



皆さん、こんにちは。たくさんの方がおいでくださってありがとうございます。

ご承知のとおり、二〇一〇年三月十一日に、地震と津波があり、福島原子力発電所が破壊され、今日で約二年という日を迎えています。いまだに古里を追われた十万人を超える人たちが、苦難のどん底で、いまこの瞬間も生きています。しかし、これまで原子力を進めてきた日本の政府、あるいは巨大電力会社、原子力産業、マスコミといった、巨大な力を持っている人たちは、福島の事故など、もう忘れてしまえと言わんばかりに情報を統制してきて、福島を忘れるようにさせられているように私には見えます。

それでも今日、これだけの方がこの場所にお集まりくださったということは、大変ありがたいと思います。本当にありがとうございます。

今日の私のタイトルは「反原発をあきらめない」というタイトルで、これは佐高さんが、「こういうタイトルはどうだ」と提案をし

てくださったものです。決して反原発をあきらめたくありませんし、福島を決して忘れないという思いで、話をさせていただきたいと思っています。

ただ、今日のこの会は、薪流会という臨済宗の仏教関係者の方々との二十周年の記念講演会です。私自身は全くの無宗教者で申し訳ないのですが、宗教に携わっている方々にとっては、「いのち」というものが、たぶん何よりも大切なものののだと思います。そのため今日のメインのタイトル「今を生きるいのち・明日を生きるいのち」ということで、「いのち」という言葉が使われて、今日の企画を作ってくださいのだと思います。

そこで、原子力の話はすでに、横江さんが短い時間で、非常に端的に話して下さいましたので、むしろ原子力のことではなくて、「いのち」ということについて、話を始めさせていたきたいと思います。

いのちの成り立ち

「生きもの」「いのち」ということを考えると、いつも私は大変不

思議だなと思います。

いま私はここに立っていますし、皆さんもこの場に加わってくださっているわけですが、みな一人一人違う人間ですし、生まれたときは、母親の卵子と父親の精子が合体して、たった一つの細胞として、この世界に生まれてきました。

そして、皆さんの体、私の体の中には、六十兆個というほどの細胞があるのだそうです。皮膚もそうですし、骨もそうですし、肉も血液もみんな、私なら私の細胞でできているわけです。それは元をたどっていけば、初めはたった一つの細胞だったんですね。万能細胞と呼ばれているような細胞があつて、それが細胞分裂を繰り返しながら、二個になって、四個になつて、八個になつて、どんどん広がっていく。そしていま六十兆個になつていくわけです。

その細胞分裂を繰り返していく途中で、私の皮膚になる細胞は、必ず皮膚になろうとする。私の血液になろうとする細胞は、必ず血液になつていく。骨になる細胞は

平成 25 年 3 月 9 日

薪流会発足 20



骨になっていく。目の細胞は目になっていくというふうに、まったく同じ遺伝子を持った細胞が、それぞれみな自分の役割を認識して、その役割をきちんと果たそうとする。そういう想像もできないほど複雑なことをやって、「いのち」というものが成り立っています。いま見ていただいている写真の左上が「いのち」が生まれる初めです。真ん中にある大きいものが卵子で、その卵子の周りに精子がまわり付いて、何とか受精をし

ようとしてくる。

そして一つの精子だけが、この卵子の中に入ることができる。そうすると卵子は防御壁をつくって、それ以降の精子を受け付けなくなるというところで、万能細胞というものが始まります。それが細胞分裂をして二つになって、また細胞分裂をして二つになって、というようにして、次々と細胞を増やしていくのです。

この図の一番上の段に何やらたくさんのおものを並べましたけれども、これはお分かりになるでしょうか。初め万能細胞だったものが、細胞分裂を繰り返していつて、何か生きものというか、目はあるし、胴体はあるしというような形になってきたときの、それぞれの生きものの姿です。どれがどの生きものなのか、皆さんにはお分かりにならないだろうと思いますが、それがもう少し細胞分裂を繰り返していくと、中段に示した姿になります。ちよつと何か生きものの形が見えてきたように、皆さんもお気づきになると思いますが、それでもまだ、いったいこれが、こ

の先どんな生きものになるのか、よく分からないという姿をしています。

この先、もう少し細胞分裂を繰り返していくと、下の段に示した姿が変わっていきます。左の端が魚です。順番にサンショウウオ、カメ、ニワトリ、ブタ、ウシ、ウサギ、そして一番右が人間です。初めは区別もつかないような姿だったものが、細胞分裂を繰り返しながら、それぞれの生きものとして成長していくことになりました。先ほど見ていただいたたった一つの細胞だったものが、だんだん姿を変えて生きものになっていくということなのです。

そのすべては遺伝情報に書かれています。私も含め、この会場の六百人ぐらいの皆さんは、すべて違う人間ですね。姿形も違いますし、考えていることも違うでしょう。もちろんこの会場にいる人たちだけではなく、浜松市内に住んでいる方、全部違う人間なわけですし、日本人だって全部違う。世界七十億人、全部違う一人一人の人間なのですね。

なぜかと言えば、私は私という遺伝情報を、母親と父親からもらって私なのです。皆さんもそうです。かけがえのない一人一人の「いのち」です。その「いのち」はすべて、父親と母親からもらった遺伝情報というもので、私なら私というものがつくられています。たった一個の万能細胞で受け継いだその遺伝情報を、細胞分裂をしながら複製していつて、まったく同じ遺伝情報を、六十兆個まで間違えずに伝えていくということと、私が生きているということになるわけです。

では、その遺伝情報は、いったいどんなふうに書かれているかというのですが、細胞の中に核という部分があつて、その核の中に染色体というものがあるのだそうです。私は生物学者ではありませんので、正確に知っているわけではありませんが、そうだと言われているんです。こんなX(エックス)字になったようなものだそうで、電子顕微鏡で見ると、何か毛糸をぐるぐると巻いたような姿になっているそうです。

そして、この糸を丸めたような染色体の端ところから引っ張っていくと、ずるずるとほどけてくる。このほどけてくるものが、私たちがDNAと呼んでいる物質で、そのDNAが二本寄り合わさって、一本の糸になっている。その二本の糸を結びつけているのが、塩基えんきという物質で、こういう塩基の組み合わせで、二つのDNAを結びつけているかということが遺伝情報です。それを非常に正確に複製しながら、私なら私が生きていられるということになっているわけです。

これがDNAだと思ってください。はじめ一本だったものが、細胞分裂をするときに二本に分かれていって、相手方の糸を正確に複製していくということをやっていきます。一本だった染色体の糸が二本になって、二本にしたものを細胞分裂の一つ一つの細胞に、また分け与えていくということをやっているのです。

このDNAという物質は、幅が二ナノメートルなのだそうです。「ナノ」という言葉は、最近、皆さんも時々お聞きになると思いま

すが、十億分の一という単位です。ですから、ナノメートルというものを肉眼で見えることは、到底できないほどすごく細いものです。そして、その二ナノメートルの、一つの細胞の中にあるDNAをずるずると引っ張っていくと、一・八メートルになるのだそうです。

二ナノメートルという幅を想像することは難しいと思いますので、皆さんが裁縫に使うような糸を頭に描いてください。

二本の糸が寄り合わさって一本の糸になっているという、その裁縫用の糸をイメージしてください。幅は〇・二ミリという細い糸だとします。それがDNAだとすれば、長さはいったいどれだけになるでしょう？

これは中部地方の地図で、浜松が中央にあります。この地図にくっつか都市を書きました。横浜、松本、原発のある敦賀、奈良というようなところを描きました。なぜこんな都市だけ選んで、ここに描いたかという、約百八十キロという距離になっています。

DNAというものが、もし幅が



〇・二ミリの細い糸だとして、それをずるずると引き伸ばしていくと、実は百八十キロの長さになるのです。いま私たちは浜松にいますが、ここから細い糸を、

横浜でもいい、松本でもいい、そこまで引っ張って行く。その二本で寄り合わさっている糸を引き裂きながら、まったく同じ二本の糸を複製するというのができるで

しょうか。

途方もなく難しいことです。とても人間業とは言えないということ、私なら私の体の中で日夜やっている。皆さんの体の中でも、日夜それをやっているのです。そうやって私たちの「いのち」というものが維持されているという、まさに神業とでも呼ばなければいけないような不思議なことをやりながら、「いのち」というものは存在しています。

その「いのち」が存在できた希有な星がこの地球です。宇宙という広大無辺な広がりの中に無数の星があるわけですが、人間がほかの星にも「いのち」がないかと、探し続けてきても、いまだにほかの星に「いのち」を見つけないことができません。

いのちの歴史

これは月から見た地球です。暗黒の宇宙の中に青く浮かび上がる、大変きれいな星なのだそうです。この星ができたのは四十六億年前だと言われています。

初めは火の玉でした。もちろん

「いのち」は根付けません。火の玉がだんだん冷えていって、大気ができて、雨が降るようになって、海ができてというように、長い歴史をたどって、ようやくこの星に「いのち」が根付けました。

初めの「いのち」はたぶん、本来に原始的なものだったろうと思いますが、ある「いのち」が生まれて、そして絶滅して、次の「いのち」が生まれて、また絶滅していくという繰り返しながら、この星の上に、私たち人間という生きものも生まれました。

地球の歴史の中で人間

どんなふうに使われたのかと言えば、サル、ゴリラ、あるいはチンパンジーが一番人間に近いと考えられています。それがある時、直立して歩けるような生きものになった。それが、私たちが原始人と呼んでいる生きものなのです。

先ほど横江さんは、「五十万年前くらい前だ」とおっしゃいましたけれども、四〇〇万年前に原始人らしいものがいたという説もあります。五十万年とか四〇〇万年前

に、こんな姿の生きものが、この地球上に生まれました。

木の上をねぐらにしたか、洞窟の中で生きていたか、私には分かりませんが、少なくとも自然に溶けこむように、自然に寄り添って生きてきた生きものでした。

それがだんだん進化というのか、いろいろなものを覚えるようになって、ある時に狩りを覚えめました。道具を使つて、ほかの生きものを捕つて食べるということ覚ええるようになりました。いまから十万年くらい前なのだそうです。

そして次には、農耕を覚えめました。自分の力で作物をつくつて食べるということ覚える。そうすると今度は、定住できるようになります。畑や田んぼをつくつて、そこで生きるということ。これが約一万年前だそうです。さらに進化をしたというか、時が流れ、いま現在の私たちは、巨大なビルを建てて、電気をふんだんに使つて、この図の一番右に描いたような生活をする生きものになってしまいました。

人間が原始人として生まれてか

らこんなにちままでに、いったいどのようにエネルギーを使つてきたのかということを一枚の図に描いたのがこの図です。時間は左の端から右へ向かつて流れていきます。

左の端のほうに、数百万年前に原始人と書きました。右に行くにしたがつてだんだん時間がたつてきて、現在のほうに至っています。

そして、帯が何本か立ててあるのですが、それぞれの時代に生きていた人々が、どれほどのエネルギーを使つたのかということを、帯の高さで示すようにしました。

しかし、原始人と書いたところの帯は、皆さんにはほとんど見えないと思います。つまり、原始人と呼ばれている人たちは、エネルギーなんか使わないで生きていたということなのです。

それが狩りを覚えるようになって。それでもまだ帯はほとんど見えないですね。農業を覚えるようになって、初めて帯が見えてくるようになりました。家庭生活に使つたり、農業のために使つたりして、人間がはつきりとエネルギーを使つて生きる生きものとし

て、地球上に姿を現してきました。

その後も農業がどんどん高度化してきまして、お釈迦さんが生まれた時代も経て、エネルギーをほとんど使うようになってきました。

この図に黒い線を一本、左の下から右の上に描いたのですが、人間という生きものが地球に現れてから、累積でどれだけエネルギーを使ったかということを計算したものです。初めのころは、人間はほとんどエネルギーなんか使わないできたわけですが、あるところから急激に、エネルギーを使うような生きものに変わってきたということを、分かっていただけたと思います。

では、「ある時」というのはいつなのかというと、産業革命が起きてからです。ジェームズ・ワットという人たちが、水を沸騰させて蒸気にすれば、噴き出してくる蒸気の力で機械が動くということを見つけました。それが産業革命です。

それより前の人間は、農耕をするためには家畜を使っていた。そして一部の享樂的な生活を

したい人たちは、奴隷を使って、自分たちだけが豊かに生きることがをやっていたわけですが、産業革命が起きてからは、とにかく水を沸騰させることができれば機械が動く、それで自分たちが豊かに生活できるということに気がついて、猛烈にエネルギーを使う時代に入ってきたということになりました。

そして先ほど、時間が左から右に向かって流れていきますと聞いていただきましたが、この時間の流れの長さは、まったく不正確です。例えば、右のほうではかなりの幅で百年という長さを示していますし、左のほうではほんの短い幅で数百万年を表してしまっています。ですから、時間の流れの長さを図の幅で示そうという意味で言えば、これはまったくいんちきです。私が皆さんに見せながら、これはいんちきだと自分で言うのは大変申し訳ないけれども、少なくともこれは、長さに関する限り正確に表していません。けれども、このようにしか、私には描けなかったのです。右のほ

うにあるこの幅で百年と書いたわけですが、左の原始人たちが生きていた時代の百万年を、こういうスケールで描こうとすれば、いったいどこから図を描き始めたらいいか、分からないほどのことになってしまいます。

この写真は浜松駅周辺の写真で、いま私たちがいるのがここです。そして浜松の駅が、このビルに五つの円を描いています。一つが百メートルです。ただ、一番外側だけちょっと幅が狭いのが分かっていただけだと思いますが、これは幅が六十メートルです。つまり、いま私たちがいるこの場所から、四六〇メートルという円をここに描いているわけです。ちょうど浜松駅の一番西の端っこ辺りが四六〇メートルになります。

私は今日、大阪の南のほうから、電車を乗り継いで浜松駅に来ました。一番後ろの車両に乗っていて、そこからずっと歩いて、この場所まで来ました。ちょうど円の一番端から歩いてきたくらい距離です。皆さんもなにがしか、電車に

乗って来られた方もいるかもしれませんが、浜松市内にお住まいの方もいらつしやると思います。

そこで、この四六〇メートルと描いた一番外側の円のところに、皆さんがまず立つと想像してください。私はなぜ、この四六〇というへんてこな円を描いたかというと、この四六〇メートルという長さを、地球四十六億年という歴史の長さに置き換えて考えてほしかったからです。

例えば、新幹線のホームの端で地球が生まれました。その時は火の玉で、生きものも何もない。ある時、生きものが生まれて、絶滅してはまた新しい「いのち」が生まれ、そしてまた絶滅しては新しい「いのち」が生まれて、いま私が立っているこの場所が現在だとしてください。そうすると、一番外側の円からこの場所まで来る間の、どこで人間という生きものがこの地球に現れたでしょうか。

いま私が皆さんに聞いているのはこういうことです。地球誕生四十六億年前というのを、四六〇メートルに置き換えて考えます。

人類誕生は、先ほど四〇〇万年ぐらい前だと聞いていたのだいたわけですが、これがいったいどれくらいの長さになるのか。浜松駅からここまで来る間の、いったいどの辺りで人間が地球に現れたのかという事です。

答えを言ってしまうと、四十センチです。浜松駅のホームの端から歩き始めて改札を出ても、人間はまだこの地球上にはいないのです。浜松駅の駅舎からアクトシティに歩いて来て、アクトシティの建物に入っても人間はいないのです。この会場の扉を入っても、皆さんがいまお座りのところをずっと歩いてきても、まだこの地球上には人間はいないのです。

私が現在だとすれば、私の手前四十センチになって初めて、本当に刹那的とも呼ぶべき時間の長さで、人間がこの地球に現れたのです。

地球を壊してきた人間の歴史

しかし、その生きものは、何度も聞いていただいているように、長い間、自然に溶けこむような生きものでした。それが産業革命と

いうものが起きて以降、猛烈にエネルギーを使うようになりました。森林を切り倒して、はげ山にして、それでは足りないから石炭だ、石油だ、いや、それでも足りない原子力だ。とにかく何でもいからエネルギーを持つて来いというように、私たち人間がなってしまいました。

産業革命は二〇〇年前に起こりました。では、産業革命が起きて、猛烈にエネルギーを使うような時代に人間が突入したのですが、それは人類が生まれた四〇センチから私まで来る間の、どの辺の距離だと、皆さんお思いでしょうか。

これも答えを言ってしまうえば、〇・〇二ミリです。もう測ることも見ることもできないという、本当にわずかな時間の中で、私たちがむちゃくちゃなエネルギーを、この地球という希有な星、「いのち」が根付ける大切な星の上で、使い始めてしまったということです。

今日、何度も聞いていただいていますけれども、「いのち」は必ず絶滅します。何千万年前までは、恐竜がこの地球を支配していたの

ですけれども、恐竜だって絶滅しました。どんな生きものも、生まれてはある時に絶滅します。生きものとして仕方のないことなのです。もちろん私だって死ぬ。皆さんだって死ぬわけですし、種としての人間だっていつかは死ぬ。そんなことは当たり前のことで、仕方ありません。一五〇〇年の時も、一六〇〇年の時も、一七〇〇年の時も、絶滅に追い込まれる生きものというのはいたのです。

しかし、産業革命が起きて、人間が猛烈にエネルギーを使うようになって以降、それと軌を一にするようにして、絶滅に追い込まれる生きものが増えてきてしまっています。

この地球という「いのち」の星は、絶妙なバランスで生きています。植物が育って、その植物を動物が食べて生きられる。そして動物が死ねば、バクテリアがその体を分解して、また植物の栄養になるというように、織物でも織るかのように、たくさんの「いのち」が、お互いを支え合って生きているという、そういう星なのです。

その中で、たった一つの生物種でしかない人間が、エネルギーを膨大に使うようになったがために、たくさんのほかの生きものたちを、絶滅に追い込んでいるのです。人間というこの生きものは、何か知恵がある生きものだと、皆さん思っているかもしれませんが、人間は生きものを分類していつて、「自分たちは霊長類だ」と言うのです。そして「万物の霊長だ」というように、自分たちのことを呼んでいます。

本当か、と私は思います。その生きものが、ほかの生きものを次々と絶滅させていく。

揚げ句の果てには、自分が絶滅するに決まっている。本当に愚かな生きものだと、私は思うようになります。

その生きものは地球上で、さまざまな悪事を働いてきました。これはお分かりいただけるでしょうか。真ん中に黄色いものが映っています。これは人類が初めて大きく裂かせた原爆です。「トリニティ (trinity)」というキリスト教の「三位一体」という言葉を

使つて原爆に命名したのです。「もんじゅ」や「ふげん」を原子炉の名前にするというのも、とんでもないことなわけですが、トリニティというキリスト教の神、精霊というようなものを、原爆の名前にするというのもまた、とんでもないことだと私は思います。

これが爆発したのが、一九四五年の七月十六日です。ドイツのベルリン郊外に、ポツダムという由緒正しき街があります。その街に、米国、ソ連、イギリスの三国の首脳が集まつて、日本にどうやって降伏勧告を突きつけるかという会談を開きました。ポツダム会談というのですが、その日の朝、この原爆は、米国のニューメキシコ州のアラモゴルドという砂漠で大きく裂きました。

いかにせん人類初めての原爆です。つくつた物理学者も軍人も、本当に爆発するかどうか分からないまま、何キロも離れたところで見守っていました。そしてスITCHを入れると火の玉が立ち上がった、「千の太陽よりも明るく地表に輝いた」と記録されています。

す。爆心地にあつたものは、すべてが溶け落ちてしまうという猛烈な爆弾でした。何キロも離れたところで見ていた物理学者、軍人のところまで、猛烈な爆風が吹き寄せて来るということになりました。

もちろん、そこにいた人たちは喜んだのだと思います。何年もかけて、猛烈なお金をかけて、ようやくつくつた爆弾が爆発したのです。そして、それはすぐに米国からポツダムまで打電されて、トルーマン大統領がそれを聞き、「よし、これで戦後の世界は俺たちのものだ」とチャーチル首相に耳打ちしたそうです。そしてこの原爆は、直後に広島に落とされました。今日は詳しく皆さんに聞いていただく余裕がありませんが、当たり前のこととして、広島は砂漠ではありません。人が住んでいました。この浜松だつて皆さんがお住まいになり、朝起きてご飯を食べて、大人は仕事へ行く、子どもは学校へ行く、小さい子はそこら辺で遊ぶ。どこの街だつて、どこの世界だつて、そうやって人々は生きてきました。

広島は街だつてそうでした。たくさんの人々が普通に生活をしてる街だつたのですが、それを承知で米国は、広島に街に原爆を落としました。一瞬にして街が壊滅し、たくさんの方が殺されていく。生き延びた人たちも放射能を浴びて、被ばく者ということで、苦難の歴史を背負わされるということになりました。

原子力への夢

こんな悲惨な経験を受けて、それでも人間は、原子力にまた別の夢をかけるということをやつてしまいました。かく言う私も、実はそうなのです。原爆というものは大変悲惨なので、こんなものを二度と使つてはいけなけれども、原爆が示したこの猛烈な力というもの、人類の平和のために役立てばきつと役に立つと、私は思い込みました。

広島、長崎の被ばく者の方たち、彼らは長い間、核兵器に反対をして、世界の先頭に立つて戦つてきてくださったけれども、その被ばく者の人たちだつて、原子力平和

利用というものに関しては、むしろ賛成してきました。自分たちはこれだけひどい被害を受けた。この被害を被害として終わらせたくない。むしろ自分たちの犠牲を人類のために役立てたいと、彼らは思ったのだと思います。私もそう思いました。

当時、日本も含めて世界中で、原子力がこれからの人類のためになるんだという宣伝が行き渡つていた時代でした。

例えば、日本の新聞がどんなふうに書いていたかということ、一つご覧に入れます。

「さて、原子力を潜在電力として考えると、まったくとてもいいものである。しかも、石炭などの資源が、今後地球上から次第に少なくなっていくことを思えば、このエネルギーの持つ威力は、人類生存に不可欠なものと言つてよいだろう」と言うのです。私は心底信じました。化石燃料がなくなつてしまふ。エネルギーを膨大に使う人類の、この社会を維持するためには、どうしても原子力だと思ひ込みました。

皆さんはどうでしょうか。いまでもそう思っておられる方は多いと思います。日本の国も電力会社も、いまだにその宣伝を流し続けています。「化石燃料がなくなってしまうから、次は原子力だ」と言っているのです。マスコミもずっと流し続けているので、たぶん多くの日本人は、いまだにこの宣伝を信じていると思います。

しかし、これはまったくの間違いだったのです。後でもう一度聞いていただきますが、原子力の燃料であるウランは、この地球上には資源としてあまり多くありません。石油に比べたら数分の一しか資源量はありませんし、石炭に比べれば数十分の一しかないという、もともとほとんど資源として役に立たないものでした。でも、この夢を私自身も信じたのです。

そして、この新聞は後半があります。「電気料は二千分の一になる」。なりましたか。ならないですね。日本は世界一電気料金が高い国になってしまいました。さらには、火力発電のように大工場を必

要としない。大煙突も貯炭場もない。また、毎日石炭を運び込み、たき殻を捨てるための鉄道もトラックもいらない。密閉式のガスタービンが利用できれば、ボイラーの水すらいらないのである。もちろん、山間へき地を選ぶこともない。ビルディングの地下室が発電所ということになる」と。

どうぞやってください。この巨大なビルの地下に、原子力発電所をつくつたらいい。浜松だつて、静岡だつて巨大な街です。街に造つたらいいんです。でもそうしなかった。

静岡県では浜岡に造りました。でも目と鼻の先ですから、事故が起きれば結局同じことになってしまふのですけれども、都会には決してつくらないで、へき地に原子力発電所を押しつけて、これまでやってきたのです。日本が原子力を始めたところに描いた夢というのは、ことごとく間違えていました。

原子力の現実

その原子力をやってしまったと、大変困ったことが起こります。ウ

ランを燃やすわけですから、核分裂生成物という死の灰を大量に生み出すことになります。いったいどれくらいつくるのかということですが、いまここに白いキャンパスを見ていただいています。この左の下に、小さな四角を描きました。この小さな四角は何かというと、広島原爆がさく裂したときに、核分裂したウランの重量です。八百グラムです。いまここに水を留意していただいています。

これはたぶん五百シーシーぐらいだと思えますので、五百グラムぐらいです。軽いのでぽんぽんと投げ上げられる。八百グラムですから、大して変わりません。誰だつて片手で持つて投げることができません。それぐらいのウランが核分裂をしたがために、広島原爆がなくなってしまうほどのエネルギーを出したのです。

それならこれを人類のために使おうと、私も思ったわけですし、そのために原子力発電というものが始まったわけです。

では、原子力発電を行おうとすると、どれだけのウランを核分裂

させなければいけないか。こんなにちでは百万キロワットという原子力発電所が標準になりましたが、その百万キロワットの原子力発電所一基を一年運転させるために、一トンのウランを核分裂させなければいけません。広島原爆で核分裂させたウランの、優に千倍を超えるほどのウランを核分裂させなければ、発電所が動かないという、そういう機械でした。

猛烈にウランが必要になってしまふ。こんなにたくさんウランが必要なら、地球上のウランが、すぐになくなってしまうということに気がついたのです。

原子力の専門家であればみんな知っていて、原子力なんか未来のエネルギー源にならないことが分かっているのです。でも、皆さんにはそういう情報がいかんという、本当に不思議な国になってしまっています。

そして、このことはもう一つ重要なことを示します。八百グラムのウランが燃えたということは、八百グラムの核分裂生成物ができたということです。一トンのウラ

ンが燃えたということは、一トンの核分裂生成物ができたということとです。つまり、広島原爆がまき散らした死の灰の、優に千倍を超える死の灰を、一つの原子力発電所が一年ごとにつくっていくという、そういう機械だったのです。そんな機械が万一でも壊れるようなことになれば、大変な被害が出るということは、もちろん分かっています。私も分かりました。

だから私は、原子力はやってはいけないと思うようになって、原子力発電に反対をするようになりました。原子力を推進する人たちも分かっていました。でも彼らはやめなかった。

どうしたかというと、原子力発電所は都会に建てないで、過疎地に建てるという選択をしたのです。

悪夢が現実

そして結局、事故は起こりました。これは皆さんが何度もご覧になつてきた写真だと思えますが、いま事故が進行中の福島第一原子力発電所の写真です。

上から下に真つすぐ真ん中に並

んでいるのが、タービン建屋という建屋で、この中に発電機と、その発電機を回すためのタービンが並んでいます。原子炉本体はその左側にあります。一番上に写っているのが一号機です。原子炉建屋の最上階で爆発が起きて、建屋が吹き飛んで、骨組みだけになっていきます。手前が二号機です。まだ建屋の形があるように見えますが、この二号機は内部で最大の破壊を受けていて、「環境に放射性物質をまき散らした主犯人は二号機だ」と、日本の国と電力会社が言っています。

その手前が三号機です。猛烈な爆発が起きて、原子炉建屋の最上階が吹き飛んで、骨組みすらが崩れ落ちてしまうというほどの爆発でした。その手前が四号機で、やはり原子炉建屋の最上階で爆発が起きて、建屋が吹き飛んで骨組みだけになってしまいました。

今日はこの話は詳しく聞いていただけないのですが、この四号機の場合には、特殊な壊れ方をしていまして、原子炉建屋の最上階ではなく、その下の階の壁すら、

すでに吹き飛んでしまっています。

このことは重要なことを意味しています。いまこの写真で写っている、穴の空いた壁のすぐ隣に、四号機の使用済み燃料プールが埋め込まれています。その使用済み燃料プールに、いま現在も、燃え尽きて放射能の固まりになった使用済みの燃料というものが沈んでいるのですが、その燃料の中には、広島原爆がまき散らした放射能の一万発を超える放射能が含まれているのです。そのプールが壊れた建屋の中に宙ぶりのようになって、いま現在もあるという状態になっています。

毎日のように、福島原子力発電所の周辺では余震が起きています。もし次に大きな余震が来て、この建物が崩れるようなことにな



れば、もうほとんど打つ手がありません。また膨大な放射能が吹き出してくるということになってしまいます。

先ほど横江さんが、「まだ福島事故なんか終息してない」とお話しくださいました。本当に終息なんかしていません。いまだに事故が進行しているのです。何と

かそれを食い止めようとして、たくさんの労働者が、被ばくをしながらいま戦っているという状態なのです。

これまでに、すでに大量の放射性物質が吹き出してきました。いったいどれだけの放射性物質が吹き出してきたかを、IAEA(国際原子力機関)という国際的な原子力推進団体に対して、日本国政府が報告しました。福島第一原子力発電所から大気中に放出したセシウム137の量、放射能の単位はベクレルですけれども、報告書の中の値をここに書いて、皆さんに見ていただこうと思います。

先ほど、ウランが核分裂すると、核分裂生成物ができると聞いていただいたしましたが、一言で核分裂生成物と呼ぶものの中には、およそ二百種類の放射性物質が含まれていて、その集合体が核分裂生成物です。その二百種類の放射性物質のうちで、人間に対して一番危害を加えると私が考えているのが、セシウム137という放射性物質です。それがいったいどれだけ出てきたか。

まず、左の下に黄色い四角を書きました。これは広島原爆がまき散らしたセシウム137の量です。数字でいうと「八・九×一〇一三Bq(八・九×十の十三乗ベクレル)」という数字です。でも皆さん、この数字は全然ぴんとこないと思いますので、この四角の大きさだと思ってください。

福島第一原子力発電所から吹き出してきたセシウム137の量は、一号機だけで広島原爆六発分から七発分です。最悪なのは二号機ですし、三号機も放出した。一号機から三号機は、二〇一一年三月十一日に運転中に事故に巻き込まれて、炉心が全部溶け落ちてしまったのですが、そこからこれだけ出てきました。大気中に吹き出してきただけで、広島原爆百六十八発分だと日本国政府が言っています。

けれども、私はこれは過小評価だと思っています。今回の事故を引き起こした直接の責任は、東京電力にあります。その東京電力に「おまえの電子力発電所は安全だ。動かしていい」というお墨付

きを与えたのは日本の政府です。日本の政府には猛烈に重たい責任がありますし、私は「責任」という言葉では甘すぎると思います。まさに、犯罪とも呼ばなければいけないようなことを、日本の政府もやってきたのです。

犯罪者が自分の罪を、軽く申告する道理はありません。なるべく軽く見せようとするわけですが、その結果出てきたのが、広島原爆百六十八発分という数字です。おそらくこれの二倍か三倍出ているだろうと思います。つまり、広島原爆がまき散らした放射能の四百発、五百発分が、すでに大気中に出てしまった。

そしていま現在、海にもまだ流れているという状態になっているのです。

では、少なくともこの大気中に出了た放射性物質で、どんなふうになっているのかと、日本の国が汚れたかと言いますと、それもまた日本政府が報告しています。皆さんご存じだと思いますが、日本というこの国は、北半球温帯という場所に存在しています。その北半球温帯では、偏西

風という風が卓越風です。西から東に風が吹いている。風ですから、もちろん南から吹くときも、北から吹くときも、東からのときもあるけれども、基本的には北半球温帯は、西から東へ風が吹いているのです。

福島第一原子力発電所の東側は全部太平洋です。つまり、発電所から吹き出してきた放射能の大部分は、偏西風に乗って太平洋に流れました。でも、北風の日もある、南風の日もあります。事故が起きた当初に北風の日がありました。そして吹き出してきた放射能は南へ流れて行きました。

福島県の浜通と呼ばれている地域一帯を汚染に巻き込んで、茨城県に侵入し、北部を汚した辺りで海に抜けました。そして南部でまた、茨城県の陸地に戻って来て、霞ヶ浦一帯を汚染に巻き込み、千葉県北部と東京の下町を汚染するということになりました。

ある時は、南東から風が吹いていて、北西へ放射能の雲が流れて行って、その日、残念なことに雨が降りました。雨で放射能が洗い



毎日新聞 平成 23 年 3 月 16 日 発行

せていますが、およそ一千平方キロメートル、琵琶湖の一・五倍というほどの猛烈に広い土地に、もう人が住むことができないと言つて、人々が古里を追われた地域になってしまいました。

ここに点線が二つ書いてあるのですが、原子力発電所を中心に二十キロ、三十キロです。二十キロの範囲は当初、日本政府が住民に避難の指示を出したところ

です。三十キロの範囲は、

自主的に避難しなさいという指示を出したところです。二十キロの範囲までは、政府がバスを差し向けて、住民をバスに乗せて、避難所を用意してその避難所に運びました。何とか人々は逃げる事ができたけれども、二十キロから三十キロの間の人たちは、「自主的に避難しろ」と言われた。

でもこの日は、地震が起きて道路が寸断されて、電気も来ない。ガソリンスタンドも閉まっているという、そういう日だったのです。

「逃げる」と言われても、逃げられる道理がなかったわけです。ただ、吹き出てきた放射能は発電所を中心に、周辺を等しく汚染したわけではありません。吹いてきた風に乗って、気ままにあちこちを汚染したわけです。

先ほど聞いていただいたように、北西のほうは猛烈な汚染を受けて、二十キロでもない、三十キロでもない、四十キロも五十キロも離れた地域までが、猛烈な汚染になってしまいました。

この五十キロ離れたところには、福島県の飯舘村という村がありました。原子力発電所からびた一文もらわないで、自分たちの力で、自分たちの村をつくろうと長い間苦労して、日本一美しい山村というほどの村に仕上げました。その村が、突然起こった事故で放射能まみれになって、いまは全村離村になりました。

その飯舘村の辺りから、南に青い帯が延びていますが、ここは福島県の中通りと呼ばれている地域です。東側を阿武隈山地、西側を奥羽山脈、両側を山に挟まれた平

たん地です。

大変住みやすいということで、北から福島市、二本松市、郡山市、須賀川市、白河市というような、福島県内の人口密集地帯がずらりと並んでいるところを、放射能の雲がなめるように汚染を広げて行きました。

そして栃木県の北半分、群馬県の北半分も汚染に巻き込み、さらに長野県を汚染しようとしたのだと思います。群馬県と長野県の県境には、高い山が連なっているために、放射能の雲がその山を越えずに、山沿いに今度は南下をして、群馬県の西半分を汚染しました。そして埼玉県の西部、東京の奥多摩というところを汚染に巻き込みました。皆さんから見れば、静岡というところは、それほど大きな汚染を受けずにすんだということになりました。

この色分けをされている青い帯と、福島の中通り全部が含まれているようなところは、一平方メートルあたりに六万ベクレルを越えています。その周りにくすんだ緑のところがありますが、そういう

落とされて、猛烈な汚染を原子力発電所から北西の地域に落としていきました。

いま見ているこのスライドで、赤、黄、緑と色が付いてあるところがあります。「一平方メートルあたりに、六十万ベクレルを越える放射能が降り積もった」と、日本政府が言っているのが、この赤、黄、緑の地域です。

あまりに猛烈なので、ここには到底人は住めないということで、日本政府が人々を強制的に避難さ

ところは一平方メートルあたり三万ベクレルから六万ベクレル汚れていると、日本政府が言っています。数字を言っても、皆さんぴんとこないと思いますので、比較の例を聞いていただきます。

私は京都大学原子炉実験所という職場で働いています。そのため放射線業務従事者という法律的なレッテルを貼られて、「一般の人々に比べて二十倍の被ばくまで我慢しろ」と言われています。

皆さんは、一年間に一ミリシーベルト以上は浴びてはいけなさと決められています。私は二十ミリシーベルトまで我慢しろと言われている人間です。

私は仕事柄、放射能を取り扱うことがあります。ただし、その場合には必ず放射線の管理区域という場所に入って、取り扱わなければいけないという決まりになっています。

私のような特殊な人間だけしか、入ってはいけない場所です。皆さんは、放射線管理区域の中に入ることすら許されません。

私が入っても、入った途端に私

は、水を飲むことも、食べ物を食べることもできない、仕事が終わったらさっさと出て来いという場所です。でも、管理区域から外へは簡単には出られません。扉が閉まっています。その扉を開けるためには、一つの手続きを踏まないといけないのです。

どういう手続きかというと、管理区域の中に私が入ったということは、私の体が放射能で汚れているかもしれない、私の衣服が汚れているかもしれないということを意味しているわけで、汚れたまま管理区域の外側に出してしまうと、普通の人たちを放射能で汚染して、被ばくさせてしまうので、管理区域に入ってから出るときには、体が汚れていないかどうかをちゃんと調べない限りは、ドアが開かないという仕組みになっているわけです。

その時の基準値は、一平方メートルあたり四万ベクレルです。

もし私が着ていた衣服が、一平方メートルあたり四万ベクレルを超えて放射能で汚れていけば、管理区域の中に、放射能のごみとして捨ててこなければいけない。

私の手が一平方メートルあたり四万ベクレルを超えて放射能で汚れていけば、私は管理区域から出られません。

水で洗って落ちなければお湯で洗う。お湯で洗って落ちなければ、せっけんを付けて洗う。せっけんを付けても落ちなければ、しよすがないので薬品で、少しぐらい手の皮膚が溶けてもいいから落とせというのです。

そうでなければ出られないというのが、放射線管理区域なのです。つまり、放射線管理区域の外側には、一平方メートルあたり四万ベクレルを超えるような汚染物は、どんなものでも持ち出してはいけないというのが、これまでの法律だったのです。

この青いところは、一平方メートルあたり六万ベクレルを超えている。それも、私の衣服が汚れている。私の手が汚れているというのではないのです。大地全部が汚れている。くすんだ緑だって、一平方メートルあたり三万ベクレルから六万ベクレル汚れている。大地全部です。建物も道路も、田ん

ぼも畑も林も山も、みんな汚れていると言っている。

本当のことを言えば、福島県の東半分を中心にして、東北地方と関東地方の広大な地域が、放射線の管理区域にしなければいけないほど汚れているのです。

何度も言いますが、普通の人は入れないのです。私のような人間が入ったって、水すら飲んではいけないというほど汚れてしまっている。

しかし、日本の国は、こんなに広大な地域が汚れてしまったら、もうどうしようもないとあきらめたのです。「賠償も補償も何もしないから、逃げたいやつは勝手に逃げろ」と言ってしまった。

放射線管理区域

日本は法治国家と言われてます。何か悪いことをすると、国家が処罰をします。だから日本というこの国には、悪いやつはいない安全な国だと、日本の国は私たちに言ってきたし、世界に向かって「もう、どうだ、日本はいい国だろう」と言ってきました。

それならば、自分が決めた法律を守るのは、国家の最低限の義務だと思います。

国家が決めた、被ばくに関する法律はたくさんありました。例えば、一般の人々は、皆さんも含めて、一年間に一ミリシーベルト以上の被ばくをしてはいけないし、させてはいけないという法律がありました。

いま聞いていただいたように、放射線の管理区域からものを持ち出すときには、一平方メートルあたり四万ベクレルを超えて汚染しているものは、どんなものでも持ち出してはいけないという法律もあつたのです。

もしその法律を私が破って、放射線管理区域の中から、放射性物質を管理区域の外側に持ち出して、どなたか一人でも被ばくをさせるようなことをすれば、私は法律に則って処罰されたはずですよ。これまではそういう国でした。

ところが、福島第一原子力発電所の事故が起きてしまった。その事故を起こした犯罪者とも呼ぶべき日本の政府は、何をしたかと

言いますと、自分の決めた法律の一切を反故にしてしまった。

もうみんな被ばくしてもしょうがない。あきらめてそこに住み続けるということにしてしまったのです。

いま福島を中心に大変な苦難、困難の中にいます。汚染地帯にとどまれば、必ず被ばくをして健康被害を受けます。避けることはできません。何とか逃げたいと、みんな思うと思います。

しかし、国家はもう「知らない」と言っているのです。そうなれば、逃げられる人はいるのでしょうか。今日この会場の中にも、ひょっとすれば、福島から逃げて来られている方がいらっしゃるかもしれません。でも、そういう方はきつと、生きる力がある方です。普通の人は逃げられません。生活を捨てて、収入を捨てて逃げられるかといえば、たいいていの人は逃げられない。

まして農業を営んでいる人たちは、土地に根付いて生きています。わけ、逃げることはできない。自分の子どもは被ばくさせたくないという思いで、子どもと母親を逃

がして、父親は汚染地帯に残っている、そういう人もいます。

どんなことをやっても大変です。逃げれば生活が崩壊してしまふ。子どもと母親だけ逃がせば、家庭が崩壊してしまふということになります。汚染地に居残れば体が傷つきます。それを避けようとして避難をすれば、今度は心がつぶれてしまふというような被害を受けるわけです。

いったいどっちにするのかと。選ぶことすら難しい選択を迫られて、何十万人、何百万人の人々が、いまも汚染地で暮らしているのです。日本の政府はそれを忘れさせようとしているわけですけれども、決して忘れないと私は思います。

世界は変わってしまいました。私は 四十年以上、京都大学原子炉実験所、あるいはその前の大学時代に、放射能を扱って生きてきました。自分が取り扱っている放射能で自分が被ばくしないように、そして、管理区域の外側にいる皆さんを被ばくさせないように、細心の注意を払って生きてきました。

私が責任を持って管理している京都大学原子炉実験所の管理区域の内部も、確かに放射性物質がありますので、被ばくをする場所があります。

しかし、どこもここもみんな危ない場所だったら、私は管理区域の中で仕事ができませんで、できる限り管理区域の中をきれいにしたい。床に寝転がっても、私の実験着が汚れないというぐらいに、きれいに保ってきたのです。

そうやって私は生きてきたんですけれども、二〇一一年三月十一



日に福島で事故が起きて以降、東北地域、関東地域の広範な地域で、人々が普通に生活する場所が、放射線管理区域以上に汚れているのです。すべてのものです。大地全部が汚れているのです。土地も食べ物も、がれきも下水の汚泥も、ほとんどのものが、放射性物質と呼ばなければいけないようなものになってしまっている。そこで人々が生きている。子どもたちも生きているという状態になってしまっているのです。

もし汚染地帯に住んでいる方々が、自分が被ばくしたくない、自分の子どもを被ばくから守りたいと思うなら、私が管理している京都大学原子炉実験所の放射線管理区域の中に逃げてきてください。そうすれば被ばくはしないで済むのです、と言えるような状況です。これまで私は、何とか外の皆さんを被ばくさせないようにしようと思ってきましたが、いまはもう違います。外が猛烈に被ばくをしちゃって、私の放射線管理区域がきれいなのです。私から見ると、世界が全部ひっくり返っちゃって

たということになりました。

今を生きる

ただ、残念ながら私には、時間をもとに戻す力はありません。そうなればこの汚れた世界で生きるしかないません。この世界の中でどうやって生きるのか、こんな事故を引き起こした責任のある大人として、どうやって生きるのか。選べる手段はそれだけになりました。必ず責任を問われると思います。戦争のときもそうでした。大多数の日本人は戦争に協力しました。宗教関係の方々が、どのよう

にその時代を過ごしたのか、私は正確には知りませんが、多くの宗教も戦争に協力したはずだと思います。「だまされた」というのが、ほとんどの日本人の言い訳になりました。軍部が悪かったんだということで、教科書は全部墨塗りになってしまったことになったのです。福島原発の事故を起こしたいまも、日本人の多くの人たちは、「自分たちはだまされていた」と思いかもしれません。皆さんの中にも、

そういう方がいらつしやるかもしれません。日本の国が原子力をやると決めて、未来のエネルギー源だ、絶対に安全なんだ、一番安い電気が送れるんだ、というような宣伝を、ずっと流し続けてきたわけですから、大部分の日本人がだまされても、私は不思議だとは思いません。しかし、「だまされたんだから仕方がない」と言うなら、まだだまされます。ちゃんと自分の責任というものを、自覚しなければいけないと思います。

私たちは未来の子どもたちから、福島原発の事故が起きた後、一人一人がどうやって生きたかと、きつと問われるようになるだろうと思います。それにきつちりと答えられる大人でありたいと、私は願います。

今日は詳しくは聞いていただけませんが、原発というのは私から見ると、危険だから反対というもののだけではありません。差別の象徴です。平常運転時でも、被ばくは誰もしたくないので、被ばく労働を下請け労働者にしわ寄せしています。いま現在もそうです。事

故になれば大変です。だから過疎地に押しつけるということをやってきて、いま福島の人たちを、猛烈な苦難のどん底に突き落としています。

事故も何もなかった。まあまあ無事に運転が終わったとしても、原発が生み出す核分裂生成物は消えないのです。先ほど横江さんがちよつと言ってくださったけれども、百万年間毒性が消えない毒物を、私たちはいま生み出しているのです。それを無毒化する力もない。子々孫々、未来永劫にわたって、私たちの世代が作り出した毒物を押しつけるということになります。こんな途方もないものは、どんな理由があってもやってはいけないと私は思いますし、原子力発電をすべて廃絶させるまで、決してあきらめないでいきたいと思っています。

今日はありがとうございました。終わります。



講師

佐 高 信 氏



訴えられた経験

佐高でございます"文殊菩薩"の後に人間が話しいたします。

私、辛口云々というふうなことを言われましたけれども、日曜日にTBS系で、『サンデーモーニング』という番組がありまして、二ヶ月に一回ぐらいの割合で回ってくるんですけども、私の場合は時々、出場停止になります。

二〇〇九年の三月でしたか、出ておりまして、あれは生番組なのですが、当時、小泉改革、括弧付きの「改革」の変なのが三人ぐ

らい出てきまして、NHKならぬ、MHKと言われていました。

「M」が村上ファンドの村上世彰、「H」がホリエモン（堀江貴文）で、「K」が日本振興銀行の会長だった木村剛。このMHKのうち、あの時点でMとHは捕まっていたので、村上とホリエモンというふうに言っていました。Kはまだ捕まっていなかった。

木村剛というのは、ご承知かどうか、竹中平蔵というところでもない男が推薦して、金融庁の顧問になつて、そして伸べていった男ですけれども、私はどちらかというと、Kのほうが先に捕まらなくてはならないというような話をしたわけです。すると関口宏さんが当然のように、「Kというのは誰ですか」と聞いたのです。

小出さんはどうか分かりませんが、けれども、私は夜中の三時ぐらいまで原稿を書いたり、時代劇チャンネルを見たりしているものですから、朝起きるのが九時ぐらいです。そうすると、あの番組は八時から十時ですから、正直言つて、あまりはつきりと目覚めていない

時間帯です。はつきりと覚醒していれば、関口さんから「Kって誰ですか」と聞かれたときに、「関口さん、KはKですよ。アハハ」と、笑つてごまかされたのです。ところが、夢か現かの状態なものですから、「Kって誰ですか」ときたときに、「木村剛です」と、ズバツと言つてしまったわけです。

そうしたらいきなり、その日に振興銀行からTBSに電話が入つて、次の日に木村が弁護士を連れてTBSに乗り込んで来て、私は名誉毀損で訴えられてしまいました。「三千万円払え」という名誉毀損訴訟を起こされて、それから私も弁護士を雇つて、いろいろやっていたわけですが、うちには約一名、家人というのがいます。「あなたは辛口評論家とか言われているらしいけれども違う。軽口評論家だ」と。うまいこと言うなと思いましたが、それはともかくとして、そういうやり取りがありました。

私は、アメリカという国は新自由主義ということで、あまり好きではありませんけれども、メデイ

アの構え方は日本とは違うんですね。自分が言つたことをあれして何ですけども、そういう場合でも、TBSならTBSが訴訟に應對します。しかし日本の場合には逃げるんです。そうすると私が前面に立たされる。言つた本人だから、仕方がないと言えば、仕方がないですけれども。

それから、新聞も訴えられることを予想して、訴訟の費用を積み立てているのだそうです。訴えられることはあり得ると。ところが、日本の場合は訴えられないように書けと言うのです。つまり、「裏を取つて書け」というのは、そういうことなのです。裏を取つて書けというのと、ちゃんとしたことしか書くなよというふうな話に聞こえますけれども、本当のところは、「訴えられるなよ」ということなのです。

私も弁護士を頼んでやつて、一年後、二〇一〇年の五月に日本振興銀行がおかしくなります。それで五月三十一日付で木村剛が会長を退任し、六月一日付で向こうが訴えを取り下げました。私も話すことが一年ぐらい早すぎました。

しかし、訴えられるというのは嫌なことです。三千万円は、判決になったら一桁下がって三百万円ぐらいらしいですが、三百万取られてたまるかという感じはします。

それから一ヶ月ぐらいいしてカムバックしました。関口さんから、「お務めご苦労さんでした」と言われまして、しょうがないので、

「関口さん、差し入れありませんでしたね」と言つて、ただ、関口さんはものすごく心配していたんですけれども、率直に言つて、小出さんや私は、テレビでは歓迎されない人たちです。

つまり、皆さん方がいまのメディアの状況で、テレビ、新聞で見ている人たちというのは、ほとんど無害な人たちということだと思います。無害ということは、生きていないということなのです。そういう人たちを見て聞いて、勉強した気になっていてはダメであるということを、最初に申し上げておきます。だから、今日のなんかはすごいですね。二大の恐ろしい人を並べているというのですから。

世論買い占め

いまから二十年程前、青森県知事選挙というのがありました。その時に、青森というのは六ヶ所村がありますから、つまり原発というのは大きな争点になる。当時の知事は自民党、もちろん推進派です。それから原発反対派もいたわけです。それと一つの世にもいる一時凍結派。先ほど横江さんの話にありましたけれども、何とか生テレビの司会者みたいな、こっちに寄ったり、あつちに寄ったり、弥次郎兵衛みたいな人を一時凍結派と言いますが、その一時凍結派が選挙の応援に有名人タレントを呼ぼうということになったわけです。そして呼ばれたのが、アントニオ猪木でした。やはり小出さんや私では、ちよつと集票能力には欠けるわけです。アントニオ猪木、子ども達も知っています。「ダアツ」とか言うでしょう。一時凍結派が百五十万円を出すから来てくださいということ、猪木も「分りました」と。

すると、その話を聞いた推進派、

原発推進派の後ろには電力会社がついているわけです。電力会社の集まりである電気事業連合会（電事連）がついています。それが話を聞いて、「うちもつと出すから、我々の方に応援に来てくれ」という話になった。そうすると猪木は、慌てて百五十万円を返して、原発推進の候補の応援に行きました。さて、ここで問題です。一体、いくらで行ったのでしょうか？という話です。

『サンデーモーニング』で一緒になる、中央大学の目加田^{めかた}説子^{もとこ}さん。出身地は新富士の人ですが、目加田さんに「学生に話をしてくれ」と頼まれて中央大学へ行って、学生に聞いたわけです。さて、いくらでしょう。当然百五十万円よりは上ですね。学生なので三百万とか五百万とか、金額がなかなか上がらなかったのですが、ようやく一千万という声が出たので、私が答えを言ったわけですけれども、答えは一億円。たかだかと言つては悪いけれども、選挙の応援です。私がそれを根拠もなく書く、また訴えられます。だから根拠は

ある。猪木の秘書をしていた佐藤久美子さんという人が、猪木が議員をやっていた頃に、『議員秘書、捨身の告白』という本を書いていきます。ここにその一億円の話が書いてあるわけです。だから、もし訴えたいなら、どうぞそちらを先に訴えて下さい、という話です。

一億で驚いてはダメなんです。驚いてはダメというか、もつとひどいことを散々やっているわけです。だから一億ということ、これを皆さん方がどう思うか。つまり「安全」という世論、それを金で買い占めてきたわけです。そういうことでしょう。驚いている人たちは、驚いていると負けてしまう





毎日新聞 平成 23 年 3 月 14 日 発行

のです。驚き超えなければならぬ。そういうものなんだと。

それと、NHKというのは民放と違って、広告収入で成り立っていないから、NHKは大丈夫なんだというふうな人がいるわけです。会場にも、もちろんいるでしょう。では、思い出していた方がいい。NHKが連日のように、あの事故の後に登場させた東大教授の関村直人という人、毎日のように出ていました。「メルトダウンしていない」と言っていたのが、

メルトダウンしていたことが分かったら、出てこなくなったでしょう。だから私は、関村直人の頭が、最初からメルトダウンしていたんだと言っているのです。

NHKは、あの人の責任をどうするのか。いまあの人が何を言うのか、本当は突き詰めるべきでしょう。NHKが何にでも中立公正なんて嘘です。NHKは東京電力の債券を買っています。持っているのです。

NHKもいまは完全に経営体ですから、東電にひっくり返られては困るんです。NHKが信用できて、そうでないところが信用できない。こんなことはあり得ません。両方同じです。

この間も『サンデー毎日』の連載で書きましたけど、「前略NHK様」竹中平蔵なんてトンデモない奴に、ダツと喋らせて、お説拝聴、何をやっているのか。竹中平蔵は、こんなに格差を広げた張本人ですよ。それが今の安倍内閣でまた復帰して来る。

話がいろいろ飛ぶんですが、皆さん方の頭の中で纏めていただく。私の話は飛ぶのが特徴です。

選挙が近くなりますと、準レギュラー的に時々テレビに顔を出している、「特定の候補者の推薦人になつていませんね」と必ず聞かれるのですが、選挙は大事だから、もちろんなつていきますよと言うと、

そうするとその期間、ご遠慮願われるのです。だから、選挙のときにテレビに顔を出して、いろんなことを偉そうに言っている人たちは、誰も応援していない人なのです。無関心層と同じ人が出て、いろんなことを喋っているわけです。

私は政見放送にまで顔を出していますので、完全にその間は干されます。政見放送というのはNHKでやるのですが、NHKに行つたときに聞きました。おかしいんじゃないですかと。どこかの誰かを推しているという事で出さなというのなら、出ているのはまったく無関心な人じゃないかと。選挙で誰も応援できないような人しか、出ていないのではないかと。そうしたらNHKの理事とか局長

とかが、「視聴者が片寄らない意見を求めます」と。皆さん方のせいにされているのです。視聴者が片寄らない意見、本当に求めていますか。片寄らない中立公正の意見なんていうのは、死んでいる人の意見です。生きている限りは片寄るのです。

私なんかよく言われるのは、「佐高は片寄っているから」と言われます。皆さん方の中にも、一回か二回は言ったに違いありません。ちゃんと聞かれていますから。「片寄らない」とは何ですか。片寄らない意見、中立公正なものを聞きたいというのは、自分が責任を負いたくない人が言うせりふです。

傍観者ではないのだから、原発は賛成ですか、反対ですか。先ほどの一時凍結みたいな話でしょう。「どちらでもありません」というのは、それは生きていない人でしょう。小出さんも私もやってきたのは、片寄らないという、その無責任な意見との戦いなんです。中立公正というのにはあり得ない。片寄らないというのは、死んでいる無責任な人の意見です。

事故の後、私は直接、新聞社の幹部というか、部長とか局長とか知っているから言うんだけれども、例えば『朝日新聞』なら『朝日新聞』が、原発について賛成・反対を一人ずつ並べる。何だあれは。反対意見というのは、いままです完全には押さえ込まれて、金で買われてきたわけでしょう。だって一〇〇日反対意見を載せろと。一〇〇日間ずっと反対意見ばかり載せて、一〇一日目に一回だけ賛成意見を載せろと。これで初めて公正という風に言えるのです。

拍手は、まとめて後でお願いします。突然来ると、次に何を喋るか忘れてしまいますから。

本当に申し訳みたいなのに、賛成・反対を一人ずつ並べるというのは、一番腹が立ちます。そんなことはあり得ない。いままでおまえたちは何をやってきたと。賛成意見ばかり載せてきたじゃないかと。そうすると「極端な意見ですね」とか言うのです。何が極端だ。おまえたちのほうが、よっぽど極端じゃないかって。極端な意見です、よく言いますよ。違いますか。一〇〇日反対意見を載せて、

一〇一日目に賛成意見を、「しようがない、一回くらい載せてやるか」と。それで初めて対等になるでしょう。でも皆さん方も、それはちよつと、という顔をしています。ここがやはり納得していませんね。毒されているわけです。

「いい人」こそ危険

私が学生時代に教わったゼミの先生の言葉で、いまだに覚えているのが、「平等なものは平等に。不平等なものは不平等に扱うのが平等だ」と。賛成意見というのは別として、反対意見というのは未だに、出ないように出ないようにされているわけでしょう。それを大きく扱うのが、逆に平等なのです。一対一の何とかというのはいり得ない。片寄らないというのは。競馬をやっているのではないのです。馬券を買うのではないのです。先ほど小出さんが言ったように、「いのち」の話になる。その辺がまた、向こうのやり方がうまいんですね。向こうと言ったら悪いかもしれないけれども、いい人を使ってくるんです。一昨年亡く

なった俳優の児玉清さん、特に女性に人気のある、「週刊ブックレビュー」という番組に出ておられて、本がお好きだとか。亡くなったら、みんな「いい人だった」と書くのです。

私は『サンデー毎日』に書きました。単なるいい人ではありません。児玉清は東北電力の原発のCMに出ていました。児玉清はいい人かもしれないけれども、私にとっては許すべからざる人だと書きました。そういうことを書くことが評判が悪いですよ。誰にでも文句を付けるという話になつてきます。

そうではないのです。みんなが「いい人」という人を、電力会社は狙うんです。そういう人を当然CMに使うわけです。そうすると、ロマンスグレーがどうのこうのと、みんな騙されてしまう。手を挙げるとは言わないけれども、児玉清さんはいいい人と、みんな思っていましたね。そのいい人だと思っている人が、東北電力の原発のCMにシヤルに出ていたというのを知っているのか、いないのか。必ずみんながいい人だと思

うような人を狙ってくるわけです。だからいい人だけでも、「ダメ」な人だとか、あるいは、いい人だけれども、上に「どうでも」が付く人だとか、そういうことを見極めなければいけない。

私は、『原発文化人五十人斬り』という、固有名詞を挙げるから原発がすごいのですが、私はいま、日本で、テレビとかで、ピートたけしの顔が消えない限り、原発は消えないと言っています。たけしはいま、口を拭って知らんぷりをしているけれども、あの三・一一が起る前、『新潮45』という雑誌で、東大教授の近藤駿介、先ほどの関村直人とか、そういう人しか東大はいないんですね。近藤駿介という原子力委員会の委員長と対談して、「オイラは工学部出身だから、原発に興味がある」と。柏崎か何かの原発を見に行ったらいいんですが、「反対派はいろいろ言うけれども、地震が起きて大丈夫なように原発は造られているんですよ。だから地震が起きたら、オイラは原発に逃げ込むつもりだ」と言っているのです。そ

れで近藤駿介は、それにうなずいているわけです。

だったら、いま行けと。近藤駿介を連れて、斑目春樹とかもいましてね。あの、デタラメ春樹と言われた。東京電力の社長、会長も連れて、いま行けばいい。帰って来るな。たけしは毎日のように、お笑いだとか何とか言って、テレビに顔を出しているわけです。

例えば、原発ですと「東京に原発を」とか、反対していた広瀬隆さん。広瀬さんは、いま現在、上映禁止物体と言われています。小出さんや私が準上映禁止物体です。

本当に私は象徴的に思う。たけしの顔が出ている限り、日本の原発は残念ながら止まりません、という風なことを書きました。そうすると色々大変です。大変ですというの、たけしの弟子で浅草キッドというのがいますが、水道橋博士という、あの人と昔、筑紫哲也の番組で一緒になったことがあります。私の郷里の酒田に帰ったときに、空港で一緒になったのです。原発のCMに出ているから、たけしもダメだけど、弟

子もダメだとか書いたので、その時に何かこう、地方の空港だと状況として逃げられない。顔が合ってしまったて、「いつかご一緒しました」とか言って、礼儀だけは正しいんですね。

あれは最初、『週刊金曜日』で批判しました。『週刊金曜日』の批判は堪えました」と言われて、仕方がないので、私もその辺は気が弱いから、まあまあと言って話をそらしたんです。そうしたらツイッターに、「佐高さんにそういう挨拶をしたら、まあまあと肩を抱かれた」と書かれたのです。

そういう話もありますけれども、要するに、いい人たち

というのは、反省しているだろうと思ってしまうのです。東京電力とか、あるいは先ほどの関村直人や近藤駿介、ビートたけし、あれだけの事故を起こしたのだから、反省しているだろうと思ってしまう。これを素人の浅墓さと言うわけです。反省していない。何の反省もしていないので



す。

ところが、皆さんはいい人だから、これは褒め言葉で言っている

ん、全然褒め言葉で言っていない。善男善女だから、「あれだけのこと

だから反省しているだろう」と思ってしまう。しかし、反省の「は」の

字もないです。

東電は反省していない

あの事故が起こってすぐ、六月二十八日でしたか、東京電力の株主総会というのがありました。『毎日新聞』に「株主総会の模様を見学して、何かコメントを言ってください」と頼まれました。株主ではないので、

株主総会には入れません。東京電力の中の会議室に、新聞記者やテレビを全部集められて、そのスクリーンに株主総会の模様が映し出されるわけです。そこに入って行きましたら、会場入り口の張り紙に、「録音録画、配信はご遠慮願います」と書いてありました。私は、「何だこれ？」と言ったんです。そうしたら『毎日新聞』に、「佐高は『何だこれ』と言った」と書かれていました。

「録音、録画、配信はご遠慮願います」という、いわゆる「上から目線」って、皆さん、何とも思いませんか？ もっとシヨックなのは、それに疑問を持たないで、朝日、読売、毎日、NHKの記者が、その会場へ入っているということです。疑問を持たないから、張り紙がずっとされているわけでしょう。私が剥がそうかと思っただけでも、また問題になるので。「録音、録画、配信はご遠慮願います」なんて、偉そうに言えた義理かという話です。それに何の疑問も持たない記者たちによって書かれたものを、皆さん方は読まされているわけです。それと、机があつて、パソコン

が一台ずつ載っているのですが、ずっとスクリーンを見ながら、パソコンのキーを叩き続けているのです。私はパソコンをやりません。一説には、やれないという説もあります。が、やらないんです。「やらない」と「やれない」では、随分違いますから。

あの時に、「原発をやめよう」という株主提案もあつたのですが、経営陣とか取締役たちが、特に会長、勝俣という議長が、どういう顔をして却下したのかとか大事でしょう。それが全然ないんです。だから機械が二百台並んでいるという感じです。皆さんはそれを読まされている。

あれは午前十時から始まって午後四時まで六時間ぶつ通しだったのですが、先ほどの『サンデーモーニング』は八時から十時近くまで二時間。大変なんです。特に寒いときは大変です。隣の岸井というのは、大学のゼミが同期なのですが、終わった途端に争うようにトイレに駆け込む。

ところが、前回の東電株主総会は午前十時から午後四時まで六時

間、勝俣という議長は少なくとも、私より五つ、六つ上。ずっと壇上に居ました。取締役たちもずっと並んでいました。あの時はとにかく、あの日で終わらないと、大変なことになるのです。延びて次の日に再招集となると、葉書を全部刷り直したり、大変です。だから、とにかくその日に終わらなければいけない。休憩動議も出しましたが、蹴飛ばして続けるわけです。

彼らはどうしていたのか。人ごとならず、それは心配になります。紙オムツを履いていた。つまり、彼らにとつても、それだけの覚悟でやっているのです。紙オムツと一億円。これに勝てるような戦いをしていくのか。

私も純情可憐というか、そういう時代がありました。自分では今でもそうだなと思っているんだけど、これも、これがひっくり返るときがあつたのです。佐川急便事件というのがあつた頃、選挙の当日に、いわゆる識者を集めて、選挙結果について喋らせる。その頃はまだ、私も呼ばれていました。自民党と公明党が勝つたのですが、正しい

やり方で、勝つたところをやっつけようと思つて行くわけです。

まだ自民党一党支配のころです。自民党と公明党から来た人間だけ覚えています。自民党は岡山県出身の加藤六月、公明党が二見、あと他の識者が並んでいたけれども忘れしました。私は、「佐川急便事件とか、そういう汚職というのは、自民党一党支配が生んだ宿便のようなものだ。ロッキード便にリクルート便が重なり、その上に佐川急便が重なったんだ」と言いました。そうしたら加藤六月が、顔を真っ赤にして怒って、私を指さして、「それは自民党に投票してくれた人間に対する侮辱だ。謝れ！」と。私もその時は若かったから、「フン」というような顔をしていました。

公明党はあの時に、自衛隊をカンボジアか何処かに送るPKO（国際平和維持活動）法案。例によって最初は反対、最後まで反対をするという無責任な態度は取れないという、無責任な態度に変わるわけです。その時に幹事長が何か、「変わったのではなくて、

成長したと御理解いただきたい」と、利いた風なことをぬかした。だから、コウモリも成長はするだろうと。しかし、私は「成長してもコウモリはコウモリだ」と言っただけですね。これも怒りました。「公党に対する侮辱だ。謝れ！」。そんなこんなしているうちにゲームセット。終わったわけですから。終わった途端に、スッと加藤六月が私の傍にやって来て、顔はとろけるような満面の笑みを浮かべて、私の手を無断で握って、「やあやあ、佐高先生、今日はお世話になりました」と。おまえのことなんか世話した覚えはないよ。「また会うことがありますたらよろしく」。もちろん腹の中は、絶対に別のことを考えているでしょう。「この進歩的文化人の生き残りめ」、みたいなことを思っているに違いないわけです。ところが、本当にとろけるような笑みです。

その時に私は、「ああそうか。

す。その時に私は、持ち前の溢れるような上品さを捨てたのです。「私だけに上品さを捨てさせて、あなた方は上品に生きていきなさい。違うんだ、こういう人間たちがいるんだ、こういう人たちの善意とかを信頼してはいけない」と、その時に思いました。だから怒っている公明党のほうに、まだ可愛く見えます。終わってもまだ怒っていましたから。

連合の無責任さ

この間の選挙で、自民大勝というのはショックでしたけれども、もつとショックだったのは都知事選。まるでレベルの低い人が、知

事になってしまいました。私は基本的に、人を褒めたい人です。本当に人を褒めたい。褒めるに値する人間が少なすぎるのです。『タレント文化人二〇〇人斬り』という、『噂の真相』にずっと書いていた中で、残念ながら一番批判している人間というのは猪瀬直樹です。刀の名折れになるけれども、批判せざるを得ないから批判している。石原慎太郎亜流ということですね。何故あの様な結果になったのか？ということ考えた場合に、宇都宮健児さんという、『週刊金曜日』の編集委員でもあり、去年は日本弁護士連合会の会長もやりました。折り紙付きの市民派です。この人を私も応援していました。つまり、どういうことかと言うと、あの時、東京都の民主党というのは、宇都宮を応援しなかったのです。自主投票という名の無責任投票、なぜ宇都宮を民主党は推せなかったかというと、宇都宮さんの掲げたものは脱原発、護憲です。民主党というのは御承知のように、「連合」という労働組合の集まりが後ろにくっついていきます。

この「連合」の中心部分というのは、電力会社の組合の集まり電力総連（全国電力関連産業労働組合総連合）、さらには原発を造っている側の日立、東芝等の電機労連、こういうものが主です。なので脱原発を掲げる宇都宮を推せないのです。それどころか、電力総連の委員長が東電の委員長が誰かが、『脱原発』と言う民主党の議員は落としてやる」と、堂々と言ったでしょう。脱原発ということを言う政党が、いわゆる二大政党、自民党、民主党、両方だめなわけですから。それともう一つ、宇都宮という人を推せなかった連合、これはものすごく犯罪的だと私は思っているんだけれども、派遣労働、派遣というのは、もちろん月給は上がらないですし、経営者の都合のいいときだけ雇って置いて、はい、さようなら。何年か前に派遣村というのが話題になりました。派遣村の村長が湯浅誠さんです。宇都宮さんは名誉村長だったわけですから。だから派遣という労働をやめなければ、生活は良くならないと。私は間違っ、ロータリーとか、

商工会議所とかに呼ばれることがあります。この間もワツと言ってやりました。経済についての考え方で、長谷川慶太郎というのがいます。昭和二年の同じ生まれで城山三郎さんがいます。長谷川慶太郎は生意気にも、城山三郎さんを批判したりしているのです。

この長谷川慶太郎系で、堺屋太一がいるわけです。そして竹中平蔵がいます。これをバブル派と私が名付けましたが、それに対する反バブル派が、城山三郎、内橋克人、私、とくるわけです。これがまともというか、この周辺に浜矩子や金子勝とかいるということです。

こちらの考え方は何かというと、つまり、一人一人がものを買う力が大きくならなければ、経済は良くなりません、という考え方。バブル派は、会社をよくすれば何とかなるという無責任な考え方です。そうすると、これは商工会議所の人たちにも使えるわけです。内橋克人さんいいなとか、私を呼ぶのだから、私も何かいいんじゃないかなみたいな区別がついていないわけだから、区別をつけてあげ

て、こちらに長谷川、堺屋、竹中でしょう。堺屋、竹中というのは日本維新の会と繋がるわけです。あの橋下徹と繋がる。またこの辺にイカれる人もいるんですね。小出さんは最初から、「あれは脱原発ではない。全然違う」と言っていました。

最近私が出した本で、『いま日本はタカ派ばかり』というのがあります。五人の有害なタカ、石原慎太郎、これは論外。猪瀬直樹はちゃっかり便乗、橋下徹は舌先三寸タカ、安倍晋三が中退不安タカ、ビートたけしがお笑い無責任タカですね。こういうのを何とか見破っていく。何か目先の解決策があるのではないかと思ってしまうと、あれにやっってしまう。

福島県の県知事だった佐藤栄佐久さん、あの人と何回かお話ししましたけれども、佐藤栄佐久さんは自民党の参議院議員でした。だから原発ではなかったのです。反原発ではなかったけれども、知事になって、福島原発が事故を起こして、「事故が起こったらちゃん

と報告してくれ。それからどう対策するのか、それもちゃんとやってくれ。」と、「ちゃんとやってくれ」しか言わなかった。

ところが、ちゃんとできないところにとつては、「ちゃんとやってくれ」と言われるのが、すごく困るわけです。佐藤さんは真面目な人だから、「ちゃんとやってくれ」としか言わないのです。原発でもなかった。ちゃんとやれない方にとつては、ものすごく圧迫になったわけです。それで「佐藤というのはうまくない奴だ」という話になって、それで、まさに国策としてやっていることです。東京電力、原発に逆らうやつは国に逆らうやつだという話になって、東京地検特捜部に佐藤さんは、完全な冤罪で捕まってしまうわけです。判決は「汚職とは認められない」という判決ばかり出る。先ほど小出さんから、「法治国家か」という話も出ましたけれども。警察や検察というのは、皆さん方はやはり、悪い人をつかまえるところだと思っていると思います。違います。佐藤栄佐久さんの事件

を見ても、捕まえた人を悪いやつにするところなのです。私なんかは、いつか私を捕まえに来るところと思っています。皆さん、佐高だからしょうがないかみたいな顔をしています。私が捕まったら、次にすぐあなた方が捕まるわけです。

それとも一つ、福島県の矢祭町、根本良一さん。いろいろと話をしましたが、とても面白い。なるほどなと思いました。あの当時、合併特例債という、ニンジンをお下げて、とにかく合併をしなさいという話を進めていった。そういう中で、知事としてそれをあまり進めなかった人が、私の知っている限り二人いました。それが福島県の佐藤栄佐久さんと、長野県の田中康夫だったわけです。だからあそこには、前からの村とか町が結構残っているのです。

福島の事故が、合併特例債で佐藤さんでなかったら、もっと悲惨なことになっていた。つまり、もともとの村や町が残っているところは、震災の被害の把握が早かった。それは分かりますね。大きくなつて有象無象が知らないところ

になったら分からないわけです。

あそこのお爺ちゃんは生きてるか、とか。それと救済物資が届くのがスムーズにいきました。大きくなったところはダメでした。

そういう体験から、佐藤さんや根本さんは、「道州制なんてトンデモナイ」と言っています。道州制というのはと地方分権というのは、一致しないんです。大阪の橋下某は道州制と言っています。それだけで地方分権論者を名乗る資格はありません。それがまったく分かっていない。「大きいことは良いことだ」なんて、とんでもないことです。根本さんと意見が一致したんだけど、町村合併というのは銀行合併と同じ。どうにもならないものが一緒になっても、どうにもならないのです。

私は一応、経済評論家ですから、みずほ銀行という銀行があります。あれは第一勧業銀行と富士銀行と日本興業銀行が一緒になりました。第一勧業銀行というのは、第一銀行と勧業銀行が一緒になったわけです。第一勧業バンク、略称DKB。これは、木偶の坊銀行

と言うのです。それに富士と日本

興業銀行が一緒になって、大木偶の坊銀行が出来上がったわけです。

皆さん方はもう忘れていたのではありません。みずほが統合した一目、コンピュータの物凄いいシステムトラブルが起こりました。合併ありきで始めているから、そういうことになるのです。あれだけのことをやっても、頭取は責任を取りませんでした。辞めなくていいんです。日本の会社というのはそういうものなのです。

いま若い人たちが、ブラック企業に入ると、労働基準法無視とかいう話だけでも、この間も、そのブラック企業というのを若い記者が、どう思いますかというので、「うん、分かるけどね。若い人を酷使させたりする。でも最大のブラック企業は東京電力じゃないの」と言ったのですが、ところがそういうところは、賃金もちゃんと払うからというので、ブラック企業ではないような話になってしまふ。残念ながら、日本というのは会社国家なのです。会社が未だに凄い力を持っている。水俣病が起

こつたとき、市民運動で「水俣病、

おかしいんじゃないか」と言ったら、残念ながらチッソの労働組合が、「自分たちの会社の利益を守る」ということで、当初、その市民運動を排除してしまうわけですが、その労働組合の中でまともな人たちが、「あれは間違っていた」と。「あれは労働組合として恥だった」ということで、「恥宣言」というのを出しました。電力会社の組合員は、全然そんな気配はないですから。もう存在自体が恥なんだけれども。

小選挙区制が問題

だから先ほど申し上げたように、自民党も民主党も脱原発ではなかった、と。だから脱原発の声が、きちんと国会に伝わっていないわけです。私は、その原因の一つが選挙制度だと思います。小選挙区制というのは、諸悪の根源なのです。小選挙区制というのはいうまでもなく、一つの選挙区から一人しか出て来られない。一人区制なんです。ということは、五一パーセント取った人が当選し、

四九パーセント取っても落ちるということです。ですから、四九パーセントの声が最初から消される。

それをもう少し分かりやすく、AとBが六〇対四〇とします。投票率が五〇パーセントだったら、三〇パーセントの支持しか得ていない人が、百パーセントの顔をするということです。この小選挙区制というのは二大政党で、政権交代の可能性を強めるんだということとで始まってしまったわけです。私なんかも大反対したんだけど、「改革」ということで行われてしまった。

二大政党制の本場といわれるアメリカとイギリスでは、例えばイラク戦争のときに、共和党も民主党もイラク戦争には賛成でした。イギリスでは労働党と保守党が両方賛成だった。いまはもう、明らかに誤りだったと言っているでしょう。だから議会に声が反映されないから、アメリカとイギリスで大きなデモが起こったわけです。つまり、デモでしか自分たちの声が反映できなかった。ですから、小選挙区制に基づく二大政党制とい

うのは、民意を反映しないのです。

「自民党 らしさ出てきた 民主党」という川柳があります。二大政党制というのは、必然的に似てきます。もう区別が付きません。そうではなくて、一つの選挙区で、例えば三人当選するということがなれば、十五パーセントか二十パーセント当選できるでしょう。そういう制度に代えなければいけない。ゼロ増五減とか、あんなチマチマした話では駄目なのです。もう一回、せめて中選挙区制に戻さないと、政治は良くならないです。脱原発という声が、きちんと国会に反映されないという話になるのだから私は思います。

皆さん方も、この間の選挙を見ていて、イライラしていると思いますけれども、しかし、ちゃんと戦っている人たちもいます。ここに来てから慌てて刷ってもらったんですけど『上関原発音頭』。上関原発に反対する祝島^{いわいしま}というところの、おばちゃんたちが凄く元気なんです。一度私も喋ったのですが、集会所にメインを占めているのは女性で、隅っこの方に男が

ちよこちよこつといるのですが、これが正しい運動の在り方です。そこで作られた『上関原発音頭』傑作です。

これは随分前の話ですから、値段はもつと上がっていますが、「町長選挙で五十万、旅行に誘って一万円、チラシを配って五千円、名前を貸すだけ一万円、印鑑集めりや金と酒 ちよいと顔出しや寿司弁当、金が欲しけりや中電さ」これは中部電力でなくて中国電力です。似たようなものですが、「これじゃ働く者が馬鹿、原発推進ヨイノヨイ。放射線やら黒い霧、まみれた金を懷に、チケットもうてハシゴ酒、飲む、打つ、買うで有頂天、バーやキャバレー温泉と、ゆるんだバンドも新品に、これぞこの世の極楽じゃ。女房子ども何のその。原発様々ヨイノヨイ」と。一番最後が見事なんですけれども、「オシヤカ様さえ言い残す金より命が大事だと 人間ほろびて町が在り 魚が死んで海があり それでも原発欲しいなら 東京 京都 大阪と お偉いさんの住む町に 原発ドンドン建てりゃよい ここは孫子に残す町 原発い

らないヨイノヨイ 反対反対ヨイノヨイ」

おばちゃんたちが毎週、原発反対のデモをしているのですが、本当に女性が元気です。やはり、この笑いですね。もちろん真剣になることも必要なんだけれども、おばちゃんたちはよく笑います。笑いというものを忘れない戦いというもの。

豆腐屋さんで作家だった松下竜一さんが、豊前火力発電所建設阻止闘争の裁判の判決で負けるわけですが、その時「あははは。負けた負けた」という垂れ幕を用意したわけです。「不真面目だ」という批判もあつたらしいですが、私なんかは、いいじゃないかと、「あははは。負けた負けた」の方が、相手にとつては怖いんです。また負けちゃった、つて泣いていたら、向こうは効いたと思うでしょう。ところが「あははは、負けた負けた」と言われたら、「あ、また来るんだ」という話です。笑いを忘れないで、反原発をあきらめないというところで、最後は吾ながら上手く纏めたな、と。

失礼いたしました。

講師プロフィール

佐高 信氏（さたか まこと）

一九四五年山形県酒田市生まれ。高校教師、経済雑誌の編集者を経て評論家に。『社会』という言葉で日本の企業社会の病理を露わにし、会社・経営者批評で一つの分野を築く。経済評論にとどまらず、憲法、教育など現代日本について辛口の評論活動が続ける。

近著に『原発文化人五十人斬り』、『決定版タレント文化人二〇〇人斬り』、『毎日新聞社』、『飲水思源メディアの仕掛人、徳間康快』（金曜日）など多数。

小出裕章氏（こいで ひろあき）

一九四九年東京生まれ。

京都大学原子炉実験所助教。

『原子力の平和利用』に夢を抱き、東北大学工学部原子核工学科に入学。原子力を学ぶ中でその危険性に気づき、一九七〇年女川での原発反対集会に参加、以降反原発の道を歩み始める。伊方原発訴訟他で住民側の参考人として活動。熊取六人衆の一人。原子力の専門家としての立場からその危険性を訴え続けている。著書に『原発のウソ』（扶桑社新書）、『放射能汚染の現実を超えて』（河出書房新社）、『知りたくないけど、知っておかねばならない原発の真実』（幻冬舎）、『原発のない世界』（筑摩書房）他。





二十周年記念事業報告

薪流会二十周年記念事業を終えて

薪流会副会長

安 部 良 道

三月九日の朝、目が覚めたら晴天。「ああ、良かったなあ」と独り言。さあ、「長い一日」が始まろうとしています。

思えば二年前の平成二十三年三月十日、愛知県犬山市の名鉄犬山ホテルでの総会で、その年の秋十一月頃に薪流会二十周年の記念事業を行うとの決議を受け、「さあ、頑張ろう」と思った矢先、あの未曾有の東日本大震災が起きました。

臨時の役員会を招集して、まず一度、総会で決めた二十周年の事業を白紙に戻して、我々薪流会として何をなすべきかを模索し、以来二年間、ボランティア活動や炊き出し等の支援活動をして参りました。その甲斐あって、今日の晴天になったかと安心しました。今日午前中には托鉢を予定しており、雨では困ります。

＊記念托鉢

朝九時に浜松市中区高町の方広

フリーダイヤル 0120-86-2779

仏壇・位牌・寺院用具・仏教美術品

ぬしや仏具店



浜松市浜北区貴布祢504-7 <http://nushiya-world.com>

ぬしや工房

お仏壇・ご本尊・仏具・家具調度品の修復
www.nushiya-kobo.com



あしなが育英会と東海交通遺児支援へ寄附の贈呈

＊記念講演会

ホテルで昼食を各自済まして、いよいよ午後の講演会の準備に皆で取り掛かりました。この講演会へ向かいました。

ホテルで昼食を各自済まして、いよいよ午後の講演会の準備に皆で取り掛かりました。この講演会

の会場は大変に広く、六百名は収容可能とのこと。しかし、本当にこの会場が聴講者で一杯になるのか？心配したのは私だけではなかったと思います。事前にある程度の人数は読めていたが、講演会が迫るにつれて、心配になりました。後日談ではあります。薪流会の大野会長も「講演会当日に六百の席が埋まるのか？」と胃の痛む思いだったそうです。

午後一時半の開場と前後して、

少しずつですがホテルのフロアーに人影が現れ始めました。講演会の講師は小出裕章氏と佐高信氏のお二人です。小出氏も佐高氏もテレビで何度か拝見しましたが、なかなか辛辣なコメントをお聞きする度、目から鱗です。今日もその様なお話が聴けるか楽しみです。刻々と開演の時間が近づいて来ました。聴講者も多く集まり、開演五分前には僅かに空席はありましたが殆どの席が埋まりました。なかなかの盛況です。まずは、ひと安心。今回の講演会の集客には大変に



苦労しました。浜松支部の役員で手分けして知り合いの喫茶店や駅前の書店などにチラシを置いてくれるように頼んだり、ある雨の日には浜松支部有志で夕方の新浜松駅前で通勤帰りの人々にチラシを配ったり等々。でも、この講演会がこれだけ盛況だったことで、その苦労もどこかへ吹っ飛びました。講師ご両人とも誠に興味深い良なお話で、講演会終了の際には「ありがとうございました」と聴講された多くの方々に声をかけて頂きました。この講演会の後には最後のイベント、いよいよ祝賀会です。

おかげさまで

40th

ANNIVERSARY

社会貢献型葬祭業

清香苑

UNION

本庄のささやき...

西可児

可児市坂戸934-3

県下初



国際規格「ISO9001」(葬祭サービス)を取得!

心豊かな人生を創造する

清香苑ユニオンホール

鮮やかな四季にいだかれて

日本ライン

可児市今渡1482-8

人と地球と元氣にする「家族葬専用ホール」

さずな

可児市広見2565-6

滝と慈悲の心が やさしくふりそぐ

まほら

可児市広見1012-1

おぶつだんの清香苑

可児市広見1664 (パロー広見店西)

365日24時間受付



0120-62-3171

＊祝賀会

最初の予定より二年過ぎて、「薪流会二十周年」ではなく、総裁である大隠窟老大師の白寿と副総裁である巨閑窟老大師の米寿、この三つを祝う祝賀会にしよう」と役員会で決めた、薪流会に縁のある方々総勢百人に上る大宴会。それは見事なものでした。

かつて私の結婚式の司会もお願いした司会者の水村春江さん。短歌なども取り入れての名司会。有り難うございました、講演会講師の小出氏と佐高氏にも参加頂き、総裁老師並びに副総裁老師への記念品贈呈。両老師からの御礼の御挨拶が心に残りました。あしなが育英会と東海交通遺児へ義援金贈呈。私と同じテーブルにいらした声楽家の村上彩子さんの歌声の素晴らしいこと！私も僧侶の一人として、「村上さんのような声でお経が唱えられたら良いなあ」と思いました。お酒も入り、和やかな雰囲気の中、村上さんの唄に寄り添うように東北地方へボランティアや支援活動に行った際のスライドが上映されました。思い出深い写真も沢山ありました。

大震災発生直後には日本全国での

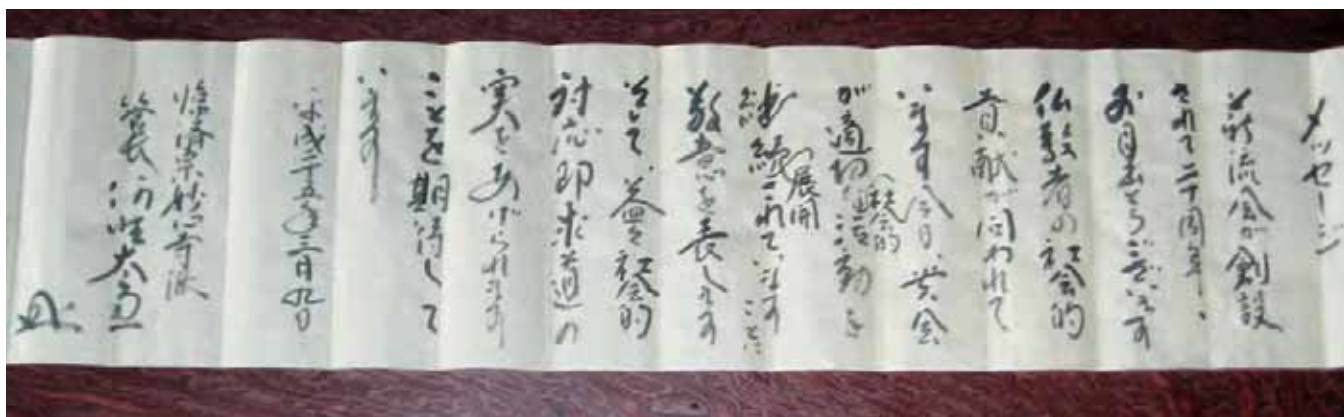
祭典自粛ムードの中、五月の浜松祭りも中止になりました。しかし、日本がもつと元気になるには、そんなことでは駄目だと私は思います。福島島の原発にしても、なかなか収束しそうにありません。避難されている多くの方々の将来を思うとき、本当に言葉を失います。我々、仏教者も「上求菩提、下化衆生」の精神で、一日も早い復興を祈りたいと思います。最後になりますが、この度の講演会並びに祝賀会に御参加御協力頂いた多くの方々に心から感謝申し上げます、総裁殿下・副総裁殿下の益々の御健康を祈念して薪流会二十周年事業無事円成の御報告と致します。

薪流会二十周年記念に寄せて

小 栗 令 眞

薪流会二十周年記念、おめでとうございます。記念講演と式典に参加させて頂きました。

東北大地震が引き金になって起きた福島原発事故から二年が経ち、あらためて今の原発の恐ろしさを噛みしめています。



妙心寺 管長 河野太通 殿下よりのお祝いメッセージ

禅の妙相

大本山妙心寺・臨済宗各御本山御用達

御袈裟法衣



莊嚴仏具調進司

後藤新助法衣仏具店

妙心寺門前

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地
電話(代表) 075-462-3915/FAX 075-462-3616
URL <http://www.rinzai.jp>

駐車場完備



式典では、白寿を迎えられてますますお元気な老師様に接し、りやすく教えて頂きました。

佐高先生の講演は、原発を取り巻く原子力村の真相に迫るという深刻な話題でしたが、ユーモアを随所に散りばめながら、事柄の本質を分かりやすく教えて頂きました。

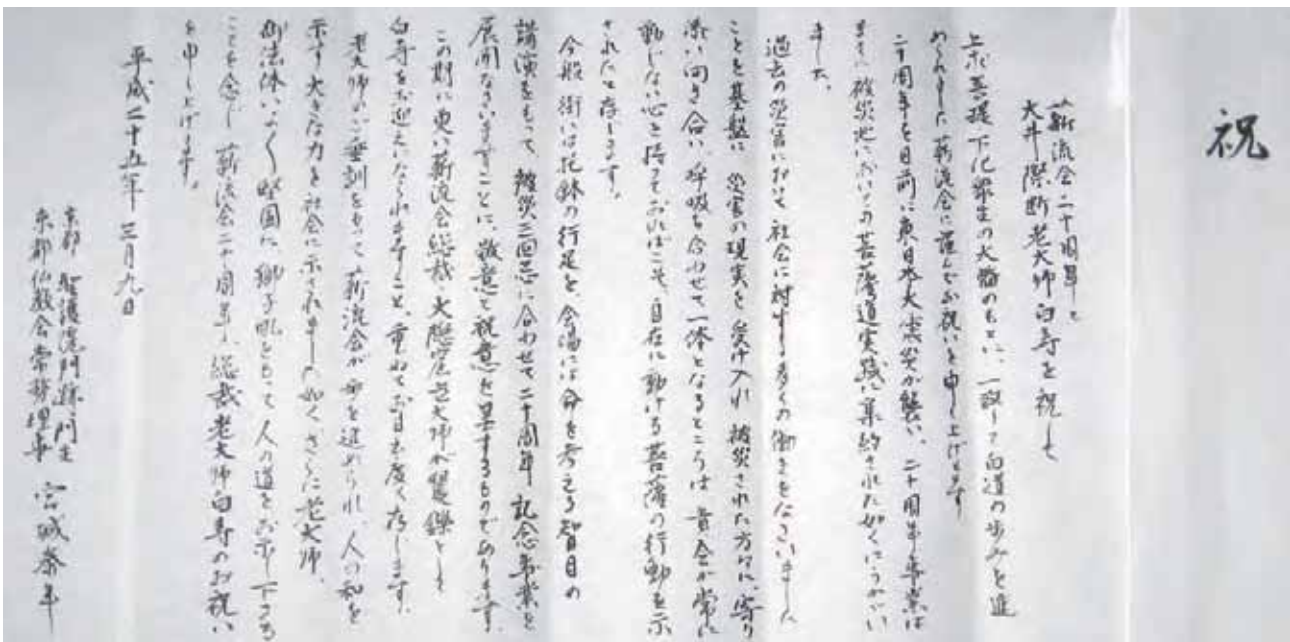
小出先生の講演では、特別な研究者しか入室できない京都大学の原子力研究施設を例にして、それよりもっと危険になってしまった福島の実状をお話し下さいました。放射能の危険があり、嚴重に管理しなければならぬ研究施設の方が福島より安全だとは、ブラックユーモアを通り越して、驚愕すると同時にその悲慘さに胸つぶれる想いです。

向上心と好奇心に溢れたその氣迫から、日々の学問研鑽と御修行の一端を垣間見る思いでした。

禅の修行に終わりはない、と身を以てお示し下さるその御姿は、私のような後進の大姉にとりまして大きな励みでございます。

大隠庵老師をはじめといたしまして皆様方のご健勝とますますのご活躍を祈念するとともに、この二十周年を機に私自身もまた自分の脚下を照らしながら進んで参りたいと思っております。

(浜松市中区 大姉)



聖護院門跡門主 宮城泰年 猊下よりの御祝辞

石のヒウガ

静岡県経済連指定

有限会社 平賀石材工業所

墓石・仏壇・記念碑・造園資材
灯籠・建築石材張石工事

本 社／〒433-8105 静岡県浜松市北区三方原町701-2
TEL.053(438)9455 FAX.053(438)9456
浜松石材センター／〒433-8105 静岡県浜松市北区三方原町701-2
TEL.053(438)8235 FAX.053(438)8237

浜松営業所／〒433-8103 静岡県浜松市北区根洗町1116
TEL.053(438)2788 FAX.053(438)2730
浜北支店／〒434-0015 静岡県浜松市浜北区於呂1337-5
TEL.053(588)7503 FAX.053(588)7096
天竜船明営業所／〒431-3306 静岡県浜松市天竜区船明38-11
TEL.053(922)2121 FAX.053(922)2122
袋井支店／〒437-0066 静岡県袋井市山科字前田3256-1
TEL.0538(43)0510 FAX.0538(43)0350
豊川インター支店／〒442-0801 愛知県豊川市上野2丁目48
TEL.0533(84)7854 FAX.0533(86)1581
佐久間営業所・工場／〒431-3907 静岡県浜松市天竜区佐久間町川合922
TEL.053(965)1232 FAX.053(965)0921
静岡営業所／〒426-0036 静岡県藤枝市上青島字北一里山560-1
TEL.054(641)7131 FAX.054(641)7135
裾野支店／〒410-1124 静岡県裾野市水窪34-6
TEL.055(993)8581 FAX.055(993)9971
お仏壇ギャラリー／〒433-8103 静岡県浜松市北区根洗町1115-2
TEL.053(414)2010 FAX.053(414)2011

二十周年記念

托鉢義援金

(順不同・敬称略)

平成二十五年三月九日(土) 浜松市

半僧坊浜松別院 正福寺に於いて

九時半参集、十時より托鉢出向、帰山。

(会員・役員・雲水・縁者総勢十五名)



二万円

臨濟寺
好徳寺

毛塚順康

静岡県静岡市(妙)
静岡県浜松市(方)

一万円

平林寺 飯沼宗秀 埼玉県新座市(妙)
多福寺 釋紹哲 静岡県浜松市(妙)
安寧寺 尾関哲堂 京都府相良郡(永)
正法寺 新野宜晃 静岡県浜松市(方)
円福寺 鏡優雅 埼玉県行田市(妙)
妙音寺 前田宗雅 静岡県浜松市(方)
宝聚寺 巨島泰雄 静岡県浜松市(方)
実相寺 勝峰正道 三重県度会郡(妙)
龍淵寺 田中義峰 愛知県新城市(方)
禅台寺 千葉元宗 静岡県熱海市(妙)
興禪寺 森田宗鑑 愛知県名古屋市中区(妙)
観音寺 上田宗演 静岡県磐田市(妙)
見性寺 柳澤晃明 静岡県磐田市(妙)
多福寺 鬼頭孝道 静岡県浜松市(妙)
天福寺 林安樹 長野県木曾郡(妙)
玉林院 野呂全明 愛知県名古屋市(妙)
文永寺 大寶俊明 静岡県浜松市(方)
光正寺 平林正諄 静岡県浜松市(方)
太耕寺 山本令良 静岡県浜松市(方)
宜雲寺 西村寛城 静岡県浜松市(方)
海福寺 城山至矣 静岡県磐田市(妙)
釣月寺 鎌田宗憲 愛知県名古屋市(妙)
善應寺 山村哲雄 静岡県新城市(妙)

五千元

慧照院 宮本敏明 岐阜県美濃市(妙)
東林寺 小池清彦 愛知県豊川市(妙)
長松寺 後藤俊道 愛知県豊川市(妙)
山田八郎 渡辺令昌 静岡県浜松市(妙)
小栗勝 静岡県浜松市 大姉

高松庵 外山要一 静岡県掛川市(妙)
全福寺 轟義敬 静岡県静岡市(妙)
龍泉寺 鈴木光雄 静岡県静岡市(妙)
長松寺 大野憲宗 静岡県静岡市(妙)
龍福寺 小川哲秀 静岡県静岡市(妙)
高源寺 菅井大典 茨城県取手市(妙)
龍福寺 後藤安弘 岐阜県加茂郡(妙)
德藏寺 勝野久道 静岡県舞鶴市(妙)
普濟寺 佐藤堪堂 静岡県駿東郡(妙)
東雲寺 藤井鉄久 静岡県掛川市(妙)
興禪寺 吉田友司 静岡県掛川市(妙)
長興寺 伊藤貴道 静岡県掛川市(妙)
能光寺 白鳥隆道 静岡県掛川市(妙)
慶長院 向令忠 静岡県掛川市(妙)
祥光寺 稻葉宗忠 静岡県掛川市(妙)
禅隆寺 小川大峰 静岡県掛川市(妙)
極樂寺 日坂宜祥 静岡県掛川市(妙)
宝珠院 片桐三之 静岡県掛川市(妙)
宗栄寺 小林宗貞 静岡県掛川市(妙)
高岳寺 武田童裕 静岡県掛川市(妙)
常善寺 矢島良孝 静岡県掛川市(妙)
眼蔵寺 池谷良孝 静岡県掛川市(妙)
神蔵寺 鎌田岳男 静岡県掛川市(妙)
宝勝寺 小澤勝男 静岡県掛川市(妙)
大蔵寺 今尾宗博 岐阜県岐阜市(妙)
龍現寺 石井康隆 岐阜県岐阜市(妙)
大覚寺 三木俊岳 岐阜県岐阜市(妙)
寶満寺 安井一道 静岡県掛川市(妙)
長伝寺 心山義照 静岡県掛川市(妙)
種徳寺 林博道 静岡県掛川市(妙)
瑞龍寺 加藤明徹 静岡県掛川市(妙)
妙雲寺 岩田尚喜 静岡県掛川市(妙)
永福寺 倉地宗隆 静岡県掛川市(妙)
弘忍寺 伊藤琴寶 静岡県掛川市(妙)
円光寺 静岡県掛川市 居士

三千元

隣松寺 徳山宗達 岐阜県不破郡(妙)
慈徳院 福富泰岳 岐阜県不破郡(妙)

二千元

桃林寺 岩田俊道 愛知県豊橋市(妙)
安國寺 山下哲禅 岐阜県掛川市(妙)
桂峯寺 野林勝彦 岐阜県掛川市(妙)
宗清寺 金井孝雄 岐阜県掛川市(妙)
清蔵寺 羽澄一彦 岐阜県掛川市(妙)
慈眼寺 武内泰彦 岐阜県掛川市(妙)
門奈廣人 静岡県掛川市 居士

大池寺 清水寿晴 滋賀県甲賀市(妙)
自保院 中林健道 静岡県掛川市(妙)
潮音寺 松永貫道 岐阜県掛川市(妙)
鈴木令紀 静岡県掛川市 大姉



この度の托鉢に対し各方面から多大なるご援助ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。



大本山龍寺塔頭寺院宝殿院本堂落慶前庭作庭

—文化財指定庭園保護協議会賛助会員—



天龍寺 東福寺 妙心寺

御用達 日本造園技術研究所

株式会社 曾根造園

〒603-8487 京都市北区大北山原谷乾町255-6
Tel.075(462)6058 Fax.075(463)5526
Url http://www.sone-zoen.co.jp
Email:hogan@mbox.kyoto-inet.or.jp

平成二十四年度 東北震災支援活動報告

・七月二十八日～七月三十日

岩手県大船渡市山岸地区

仮設住宅団地夏祭りにて

ウナギ丼（五百食）の炊き出

しとバーベキュー食材（百人

分）ご提供



・十月二十五日

研修会

「東日本大震災支援活動に於

ける考察」開催

於 岐阜市長良

岐阜グランドホテル

内容

①支援活動報告

かにNPOセンター（可児市）

・思い出復活プロジェクト京

都（京都市）・薪流会



②岩手県、宮城県、福島県各二
名合計六名の被災者をパネ
ラーとする支援活動について
のディスカッション
司会

臨済宗妙心寺派教学部長

栗原正雄師

・十月二十五日～十月二十七日

研修会「東日本大震災支援活

動に於ける考察」へパネラーと

して参加の被災者の方々を岐阜

及び京都を巡る「東日本大震災

被災者安らぎの旅」にご招待。



御法衣・莊厳具・稚児貸衣裳

山田八郎法衣店

〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39-31
電話 (052) 241-1817 FAX (052) 241-1834

平成二十四年度 研修会

これからの支援活動について

平成二十四年十月二十五日、岐阜市長良の岐阜グランドホテルにおいて、「東日本大震災支援活動に於ける考察」をテーマに研修会を開催し、会員ほか約四十名が参加しました。

研修会は、かにNPOセンター（可児市）、思い出復活プロジェクト京都（京都市）、薪流会がそれぞれの立場での被災地支援活動報告を行った。活動報告をふまえ、岩手、福島、宮城の三県から招いた六人の被災者から被災地の実情を聴き、パネルディスカッション形式で参加者と意見交換を行いました。

以下、掲載する文章は、研修会終了後、パネラーとして参加された被災者各位から「これからの支援活動について」をテーマに御寄稿頂いたものです。

横田 政敏

（福島県双葉郡）

東京電力福島第一原発の爆発事故以降、福島県内や埼玉県川口市での生活を経て、現在、私は福島県いわき市で暮らしております。被災後、全国各地から支援活動に來られるボランティアの方々には非常に感謝しております。

しかしながら、わが国の被災地支援あるいは復興に対する政治的な判断、東京電力における被災家

族への賠償等を見る限り、「遅すぎる！」と怒りをぶつきたい心境です。

遅々として進まぬ復興に、被災者は精神的苦痛・経済的限界の状況に置かれて居るのです。一日も早く見通しを付けて欲しい気持ちで一杯です。若い世代の被災者にあつては、絶望的な状況と感じている方も多くいらつしやるのではないのでしょうか。

物心両面、と一口に申しますが、これからは子供、高齢者、働き盛りの若年層と、世代を問わず心のケアが必要となつてくると思います。

こういう時こそ仏教の出番、と期待するのは私だけではないでしょう。復興も保証も先行き不透明な中で一抹の希望を与えることが出来るのも、それが仏教であり、禅であると私は念じております。



永年の信用・まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社・京都市中京区烏丸通三条下ル ☎075 (221) 4000

フリーダイヤル ☎0120-00-4200

<http://www.koekisha-kyoto.com>

葬儀式場

北ブライツホール（堀川紫明）☎075(414)0420
中央ブライツホール（五条大和大路）☎075(551)5555
南ブライツホール（堀川八条）☎075(662)0042
西ブライツホール（五条西大路）☎075(322)0042
烏丸ブライツホール（因幡薬師）☎075(351)7724
宇治ブライツホール（宇治槇島）☎0774(20)0042
滋賀ブライツホール（大津）☎077(523)0042

波立寺 住職

皆川 岱寛

(福島県いわき市)

私が住んでいる福島県いわき市久之浜町の瓦礫もなくなり、津波の被害を受けた町も建物のコンクリートの基礎部分が残る殺風景な景色となつてしまいました。

ボランティアの方々の姿も見えなくなりました。仮設住宅にお住まいの方々もマンネリな生活を送っているとのこと。

久之浜町は、三十 km 圏内にかかりますが、原発から二十 km 圏内には一般の人は勿論、住民も立ち入りを禁止されていました。

現在は、警戒区域が見直され、二十 km 圏内も住民が出入りできるようになりました。

区域も「帰還困難区域」、「居住制限区域」、「避難指示解除準備区域」、「計画的避難区域」等に分けられ、「帰還困難区域」を通る際は通行証を見せ、登録した車に専用のステッカーを貼る必要があります。通行証は住民が申請をして、市町村が発行します。



第一原発から二十 km 圏内の九市町村に設けられた警戒区域は、除染や生活基盤復旧、財物賠償などで前進が見込まれる一方、放射線量に応じて市町村が細分化されるため、新たな分断が生じる可能性もあり、国や県の支援が求められる状況です。

二十 km 圏内に住民が立ち入り出来るようになったのですが、まだ、自分の家に宿泊できません。それでも、住民は片づけや荷物を取りに行ったりしています。住宅の修繕を始めた方もいます。

このような場所への支援やボラ

ンティアの方々の力が必要になってくるのではないでしょうか。

放射能の除染作業が進む中、これにともなつての協力、支援のあり方が、市町村の再生につながると思います。

福島県の話になつてしまいました。が、被災した他県も同様にこれからなのかなと感じています。

西條 ゆかり

(宮城県東松島市)

東日本大震災発生から二年が経過しようとしています。全国放送のテレビではもう東日本大震災に関する報道は見られなくなってきました。被災地以外の場所ではもう風化しつつあるのでしよう。被災地である宮城県も仙台市市内は、何事も無かつたかのように震災前の景観に戻り、平穏な時間が流れているかのように感じますが、市内のあちこちにはまだ仮設住宅が建ち並び、毎日声を潜めて生活している方々がたくさんいます。沿岸部へ車を走らせれば、まだ津波の傷跡が残つたままの場所

各 大 本 山 御 用 達

兵 老
兵 舖

草 木 兵 助 法 衣 店

〒604-0024 京都市中京区衣棚通御池上る下妙覚寺町

京都 (075) TEL 221-0934 (代表)

FAX 241-0773



もあります。
農地は津波で残された細かなガレキを手作業で撤去しています。このようなボランティアは各地でまだまだ募集している現状です。
薪流会の皆様は各地でさまざまな活動をされてこれ、今後も交流のある被災地で親睦を深めていただきたいです。心に傷を負った方々の話を聞き、皆で笑い語らい、癒しの場を与えていただければと思います。

思います。

この度は、岐阜京都へお招きいただきましてありがとうございます。この場をお借りしまして、薪流会の皆様へ御礼申し上げます。皆様からのご支援を忘れる事なく、自分達にできることから少しずつ復興への道を邁進したいと思っています。

西 條 貴 宣

(宮城県東松島市)

今後の支援活動について述べる前に、十月二十五日から二十七日の三日間、臨済宗薪流会「研修会・東日本大震災被災者安らぎ旅」にお招き頂き誠にありがとうございます。

薪流会の皆様には私が震災時に住んでいた宮城県東松島市の避難所での炊出し支援を頂きました。長引く避難生活でこれから先どうなるのか分からない、またプライバシーが無く疲労困憊している被災者にとって、感謝の気持ちでいっぱいでした。

今年の三月で、震災から二年が過ぎようとしています。

報道等でも取り上げられているように、徐々に被災地に来られるボランティアの数は減少しています。そんな中、震災直後から今まで現地に長期滞在し、支援活動を行っている団体、個人のボランティアもいます。しかし、長期支援者もいずれは帰って行きます。でも、ボランティアの減少や帰ることは必ずしも悪いことではないと私は思っています。

いつまでも支援してもらう側、受身ではボランティアが去っていったあと、被災者自らの力で何もできなくなってしまう可能性があるからです。

そうならないためにも、被災地に住む一人ひとりが自分たちで立ち上がり、前に進んで行かなくてはいけない。数多くのボランティアに助けてもらったように、これから被災者達が手を取りあい助け合う、それが一番大切であり必要なことだと思います。

私の思うこれからの支援活動は、経済的支援が一番だと思います。生業を再建しても経営がうまくいかなければ生活ができません。ぜ

御 法 衣 ・ 莊 嚴 具 調 達

臨済宗各本山御用達

大 黒 屋

株式会社



神 田 法 衣 店

〒604-0001 京都市中京区室町通丸太町下る道場町15番地

電話 京都 (075) 221-3507番(代)

FAX (075) 252-5098番

◎地下鉄 京都駅～烏丸丸太町下車④番出口徒歩3分◎

ひ、被災地に観光や遊びに、また、被災地の特産を購入する等、経済的な支援を頂ければと思います。

また、被災地に出向かなくてもできる支援として、震災を風化させない、忘れないという事も大切な支援になると思います。

今後、起きるかもしれない震災に対し、同じ思いをしてもらいたくないという気持ちでいます。

まだまだ復興には時間が掛かりますが、今後も支援をいただきますよう、宜しくお願い致します。

古澤 大樹
(岩手県大船渡市)

この度は薪流会の研修会に被災者の一人として参加させて頂き、大変感謝致します。その後に行われた金閣寺など京都の各地を巡る安らぎの旅はとても感慨深いもので、私にとって忘れられない思い出になりました。今回は「これからの支援活動についての提言」という事で、僭越ですが私なりの拙い意見を述べさせて頂きます。

あの震災が起きた当初、殆どの人

人が着の身着のまま避難しました。その為、避難所によって差はありましたが食料や衣類の不足、ストーブで暖を取る為の灯油が不足など「物の不足」が避難していた人の共通の悩みでした。もちろん、流失してしまった家の事や行方不明の家族の安否・今後の生活について等「もっと大きく切実な悩み」もありましたが、それよりも今を自分が生き抜く為に「物の不足を何とかしてほしい」というのが多かったと思います。その理由の一つに「前述の大きな悩みからの逃避」というのもあったかも知れません。

震災から数日後には日本全国はもとより海外からも様々な物資が届けられました。大船渡市で早い所では5月中旬には仮設住宅に入居が可能になる等、「物資の不足」は完全にではありませんが

徐々に解消されつつありました。

しかし後に別の悩みが出てきました。それは、避難所から仮設住宅へ移り住み、生活環境が今までの「慣れない不特定多数の他人との共同生活」から「気心の知れた家族だけの生活」へと変化した事で、張り詰めていた気が若干緩んで、親しい人を失った事や溜まっ



京都・妙心寺にて追悼法要

寺院仏具(各種記念品)制作・販売

有限会社 天 眞 堂

中央社寺工藝社

〒451-0031 名古屋市西區城西1丁目10番21号
TEL (052) 532-0607
FAX (052) 532-0608

※軸表装、頂相、天井絵、古軸修理、仏像修理など受け承ります。

ていたストレスによると思われる体調不良が増えた事です。当初思っていた程に復興が進まない事も理由の一つかも知れません。

心の傷を癒やすのに効果的なのは、「物」よりも「心」だと私は思います。物資やお金の支援も大変ありがたいのですが、それよりも被災した時の事を話し合う機会が持てる「多数の人が集まり色々な人との適度な交流が出来るイベ



ント」等の方が、被災者の自立を促す助けになると思います。

被災者が前に進む為には、何時までも受身でいるのではなく、自らも行動に出る事が大切なのだと思います。復興への道はまだまだ遠いですが、一步一步確実に、復興に向けて進んで行きたいと思えます。

榊田 弘也

(岩手県大船渡市)

昨年十月には、薪流会の研修会が岐阜グランドホテルで行われ、被災者の代表として参加させて頂きました。そして、「安らぎの旅」では、金閣寺の中を見学させて頂くなど、本当に京都を満喫することが出来ました。ご招待して頂いたことに、心より感謝致します。

さて、震災後すぐに全国から様々な方々が支援に足を運んで下さいました。当初、避難所では、飲料水や食料、衣類や毛布が不足していました。その後は、体調を崩す方々が出るなど、医療の支援が必要となりました。

五月末には仮設住宅に移り、プライベートの空間ができた生活を送り始めることができました。

今まで、物資による様々な支援を頂きました。今後の支援については、自立に向けた支援が必要と考えます。自治会などが主催する様々なイベントなどに協賛や協力をお願いできればと思います。

例えば、「炊き出しに来ました」と支援に赴いても、支援を受ける



寺院莊嚴具・仏像・仏具・仏壇

位牌調製 製造販売

妙心寺派寺院御用達

真心で創る



竹 内

株式
会社

竹内佛具店

ねもと店
〒507-0078

岐阜県多治見市高根町3-75-2(旧248号沿い)
TEL <0572> 27-2204
FAX <0572> 27-2204

ショールーム
〒507-0833

岐阜県多治見市広小路3-28
TEL <0572> 23-8746
FAX <0572> 24-1008



側が物資を頂いて帰ってしまうというところが現実になりました。これでは自立に向けた支援には結びつかないと考えます。自らがイベントを企画し、ボランティアの方々と一緒に汗を流し、同じテーマを囲み楽しむ事が必要ではないでしょうか。

また、心のケアの一環として、音楽でひと時でも心が癒される事がこれから必要ではないでしょうか。震災後、地元の会館で無料支援コンサートなどが多く開催されてきました。

無料開催のためマナーが悪くなり、公演中に飲食やゲームをする



方もいたそうです。震災の前のように有料で公演を行い、本当の意味で「普通」に戻っていかねばならないのです。

今、被災地大船渡では、町の中からガレキがほぼ無くなり、水産会社や商店の建設が始まり、復興の兆しが見えてきています。

個人の住宅に関しては、いち早く住宅建築を進めた被災者がいる中、高台防災集団移転や公営住宅の建設工事に関しては、今年から始める予定となっています。

まだまだ目に見えての復興には至っていませんが、自力で頑張っているかなければと思っています。

当社には各種資格を有したプロスタッフが多数在籍しております。

株式会社日本石材

お任せ下さい!!

墓地の拡張や新規造成、
許認可申請から取得まで
企画・交渉等全て承ります!

《事業内容》

- ☐ 墓地・霊園開発事業
- ☐ 霊園販売・運営管理サポート事業
- ☐ 墓石販売事業

本 社：〒600-8371

京都市下京区大宮通松原下ル西門前町407番地
TEL 075-841-5562 FAX 075-841-5564

支店：京都・札幌・東京・神奈川・名古屋・
大阪・堺・神戸・広島 他全国11営業所



SUPPORT

日本全国まかせて安心。
墓所選びからご納骨まで
当社スタッフがフルサポート!

お問い合わせ・資料請求はお気軽にフリーダイヤルでお電話ください。



0120-50-5563

浜松支部だより

*花まつり法要

恒例の浜松支部主催の花まつり並びに人形供養を四月六日、浜松市高町半僧坊別院正福寺に於いて厳修致しました。

今回の導師は薪流会伝道部長向令孝師（浜松市南区老間町方広寺派祥光寺住職）。神宮寺様ご詠歌隊が花まつり法要に花を添え、引き続き人形供養。小憩後、向令孝師による法話を頂きました。

お参りされた善男善女は、向令孝師の出家から現在に至る道

程に深く聴き入っておられ、釈尊降誕会のよきひと時となりました。

*月例托鉢

浜松支部では支部発足当初から毎月一回、浜松市各地区で托鉢を行っており、ホーホーと歩く姿は少しずつ浜松市民の間にも定着してきた感があります。御喜捨頂いた浄財は、毎年末に中日新聞東海本社へ歳末助け合い義援金として寄託して居りますが、平成二十四年も十万円を贈る事が出来ました。御協力頂きました皆さま方には厚く御礼申し上げます。

原発被災地支援募金報告

三月九日開催の二十周年記念講演会の際、会場受付及び講演会場にて御来場の方々へ「原発被災地支援募金」の呼びかけを致しましたところ、十万円もの浄財をお寄せ頂きました。

弊会では、五月十五日、福島県いわき市の富岡町泉玉露応急仮設住宅自治会へ寄付致しました。御協力頂きました皆さまへ厚く御礼申し上げます。



大切な御坊 いつまでも
安心してお使いいただくために...

信仰の拠り所として建立された
大切な御坊

全々の新築という方法もありますが、
消防法の関係で木造の御
堂は建てられないというケース
も数多く見られます...

今ある木造建築のよさを残しつつ、
これからも何代にも渡って
安心してお使いいただくためにも、
適切なメンテナンスをお考
えください

永代普請

創業明治三五年

利 謹瓦 各宗 社寺御用達
一般屋根材工事請負

株式会社坪井利三郎商店
社寺宮繕事業部

名古屋市中区栄五丁目二番七号
TEL(〇五二)二四一一〇九二六

二十四年度 托鉢義援金

(順不同・敬称略)

平成二十四年九月十二日(水) 浜松市

半僧坊浜松別院 正福寺に於いて

九時半参集、十時より托鉢出向、帰山

(会員・役員・雲水・縁者総勢十五名)



三十万円

天授院

五万円

萬壽寺

妙興寺

常栄寺

平林寺

大安寺

三万円

方廣寺

二万円

多福寺

好徳寺

一万円

梅林寺

萬壽寺

養徳院

正法寺

天福寺

宝珠院

眼蔵寺

西江院

大寶寺

興禅寺

元昌寺

文永寺

金嶺寺

清昌寺

瑞應寺

三浦泰道

鎌田宗憲

足立宜了

喜久文晃

木下紹真

川松宗勝

安田宗律

陽徳寺

東雲寺

山田八郎法衣店

五千元

洞照寺

済松寺

徳蔵院

龍潭寺

長興寺

能光寺

瑞雲寺

徳運寺

太耕院

高源寺

觀音寺

桃林寺

種徳寺

瑞應寺

大儀寺

宝聚寺

菊水寺

宝満寺

東海雅彦

神野文彦

和田啓道

武藤全裕

吉田宏道

伊藤貫道

梶浦琢磨

今治堂恩

菅井大良

茨城聖典

伊東祖弘

蟹江慈千

心山衆心

伊東寧浩

荻谷典昌

前田宗舜

渡辺貞正

三谷正友

龍月院

潜龍寺

松源寺

長松寺

林貞寺

永昌寺

太清寺

長伝寺

臨江寺

妙雲寺

永源寺

岐阜県山県市(妙)

愛知県新城市(方)

岐阜県美濃加茂市(妙)

静岡県三島市(妙)

愛知県名古屋市中区(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

龍泉寺

後藤新助法衣店

神田法衣店

宇都宮玄海

曹源寺

寶積寺

隣松寺

清瑞院

仙瑞寺

真福寺

浄専寺

全福寺

宗清寺

富春庵

木村俊彦

安國寺

福應寺

中山寺

新福寺

海国寺

ぬしや仏具店

一玄堂

武藤裕治

成功院

高木 篤

東海宗順

岐阜県岐阜市(妙)

大阪府豊中市

日下哲禅

青山浄潭

中山義彦

細川貞顕

龜井元祥

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

静岡県静岡市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)

岐阜県岐阜市(妙)



この度の托鉢に対し各方面から多大なるご援助ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

大本山妙心寺御用達
臨濟宗法衣仏具調進所

澤野法衣店

〒615-8238 京都市西京区山田車塚町15-81
電話 京都 (075) 392-6181番
FAX (075) 391-6181

20周年記念事業 会計報告

自 平成24年7月1日～ 至 平成25年5月31日

収入 8,636,739 円
支出 8,636,739 円
残高 0 円

収 入

(単位・円)

詳 細	金 額
協賛金 正副総裁・顧問	6,050,000
協賛金 役員	650,000
協賛金 会員 他	825,000
祝 賀 会 費	430,000
托 鉢 所 得 金	681,739
合 計	8,636,739

支 出

(単位・円)

詳 細	金 額
レインボーハウス支援	400,000
東海交通遺児支援	200,000
記 念 会 報	1,071,000
祝賀会 引物	867,650
顧問 記念品	600,000
講 師 御 礼	500,000
司会者謝礼	250,000
会 場 経 費	1,889,752
総裁顧問化縁、答礼	815,463
会 議 費	188,686
ポスター等 印刷	572,442
事 務 費	117,961
通 信 費	170,200
特別活動基金	993,000
一般会計へ	585
合 計	8,636,739

会 計 監 査 報 告

平成24年7月1日より平成25年5月31日間の20周年記念事業会計について、帳簿等証拠書類を照合致しましたところ、厳正且つ正確に処理されていますことを、認めましたのでここに報告申し上げます。

平成25年5月31日

監事 伊 藤 壱 寶



監事 戸 崎 知 則



支援活動 会計報告

自 平成23年3月11日～ 至 平成24年12月31日

収入 13,485,109 円
支出 13,485,109 円
残高 0 円

収 入

(単位・円)

項 目	詳 細	金 額
23年度	托鉢所得・送金	3,834,991
	活動支援金	6,763,251
	参加者カンパ	251,000
	薪流村宿泊代	6,000
	一般会計より	600,000
24年度	活動支援金	230,000
	24年ディキャンプ妙心寺負担金	1,799,867
合 計		13,485,109

支 出

(単位・円)

項 目	詳 細	金 額
23年度	支援物資	341,274
	ぜんざい資材・食材	276,904
	ディキャンプ資材・食材	1,090,727
	うなぎ資材・食材	1,009,567
	交 通 費	1,787,311
	食 費	701,345
	宿 泊 費	701,850
	薪流村 経費	172,356
	事 務 費	154,906
	通 信 費	437,990
	見舞土産	197,227
	レインボーハウス支援	1,000,000
	日本赤十字義援金	200,000
24年度	東海交通遺児支援	50,000
	24年ディキャンプ妙心寺負担金	1,799,867
	24年ディキャンプ薪流会負担金	398,115
	夏祭り資材・経費	697,977
	交 通 費	758,324
	食 費	319,133
	宿 泊 費	202,993
	特別活動基金へ	821,000
合 計	一般会計へ	988
		13,485,109

会 計 監 査 報 告

平成23年3月11日より平成24年12月31日の東日本大震災支援活動会計について、帳簿等証拠書類を照合致しましたところ、厳正且つ正確に処理されていますことを、認めましたのでここに報告申し上げます。

平成25年2月1日

監事 伊 藤 壱 寶



監事 戸 崎 知 則



平成24年度 会計決算報告

自 平成24年1月1日～ 至 平成24年12月31日

一 般 会 計

平成24年度 一般会計報告
収 入

収入 5,277,205 円
支出 5,277,205 円
残高 0 円

(単位・円)

項 目	予 算	決 算	比 較	備 考	前年度決算額
賛 助 金	600,000	580,000	▲ 20,000	正副総裁・顧問・参与	550,000
会 費	600,000	465,000	▲ 135,000	役員・会員	390,000
事 業 収 入	500,000	431,000	▲ 69,000	色紙収益	447,475
広 告 収 入	600,000	530,000	▲ 70,000	会報広告掲載料	580,000
雑 収 入	50,000	1,647	▲ 48,353		355
繰 越 金	3,269,558	3,269,558	0	預金利息他	3,728,982
合 計	5,619,558	5,277,205	▲ 342,353		5,696,756

支 出

(単位・円)

項 目	予 算	決 算	比 較	備 考	前年度決算額
本 部	50,000	50,000	0	活動費	50,000
浜 松 支 部	50,000	50,000	0	活動費	50,000
事 務 費	400,000	392,685	▲ 7,315	要覧作成・事務用品 他	239,933
通 信 費	200,000	203,449	3,449	郵送料・宅配便 他	127,736
会 議 費	200,000	233,931	33,931	会所費 他	150,842
文 化 部	350,000	284,206	▲ 65,794	研修会事業費	241,515
編 集 部	900,000	852,280	▲ 47,720	会報編集・発行	866,172
托 鉢 部	100,000	93,972	▲ 6,028	支援活動費	100,000
慶 弔 費	20,000	40,000	20,000	甘露寺・常栄寺	30,000
交 際 費	100,000	80,000	▲ 20,000	中外日報・文化時報広告他	80,000
予 備 費	80,000	0	▲ 80,000		0
繰 越 金	3,169,558	2,996,682	▲ 172,876	次年度へ繰越	3,269,558
合 計	5,619,558	5,277,205	▲ 342,353		5,696,756

特別活動基金 4,324,000円

前年度繰越金	3,503,000
今年度積立金	821,000
合 計	4,324,000

会 計 監 査 報 告

平成24年1月1日より平成24年12月31日間の会計について、帳簿等証拠書類を照合致しましたところ、厳正且つ正確に処理されていますことを、認めましたのでここに報告申し上げます。

平成25年2月1日

監事 伊 藤 壺 寶

監事 戸 崎 知 則

浜松支部会計

収入 156,531円
支出 156,531円
残高 0円

収入

項 目	金 額
一般会計より	50,000
托 鉢 所 得	82,894
繰 越 金	23,531
合 計	156,531

支出

項 目	金 額
事 務 費	5,955
通 信 費	33,480
交 通 費	5,000
歳末助け合い	100,000
次年度へ繰越	12,096
合 計	156,531

臨 濟 宗 各 派
御 莊 嚴 袈 裟 衣 調 進 所

加 藤 法 衣 店

〒453-0047 名古屋市中村区元中村町1丁目72番地
電 話 052 (471) 1496
FAX 052 (471) 1681

精進料理・慶事・仏事御膳料理

御料理・仕出し

紀 文

岐阜県山県市青波 262-1
本 店(代) TEL. (0581) 52-1090
FAX. (0581) 52-3020
岐阜サービスコール ☎ 0120-371605

お正月用色紙御案内

大隠窟老大師揮毫色紙

(工芸印刷)

解説書・たとう紙付 (折込み済)

ご好評頂いております総裁猊下揮毫の正月用色紙を本年も発売致します。

一枚 三三〇円 [送料別・税込]

(但し一般は四三〇円)

※寺院の方は五〇枚単位にて御願ひ致します。

(但し在家の方は十枚単位より受付致します。)

申込み先 (左記の二カ寺にて受け付けます)
大雄寺

〒五〇九一〇三〇一

岐阜県加茂郡川辺町下麻生一九九八

TEL〇五七四一五三一五二〇

FAX〇五七四一五三一六九二二



平成 26 年お正月色紙見本

徳生寺

〒四三四一〇〇四一

静岡県浜松市浜北区平口五四八

TEL〇五三一五八七一〇〇五

FAX〇五三一五八七一〇〇九

申込期日 平成二十五年十月二十日頃
発 送 十一月末日頃

編集後記

御多忙中、総裁猊下はじめ各位には玉稿ご執筆頂き、厚く御礼申し上げます。

二十周年記念講演会講師の佐高信先生の御著書は小生も何冊か耽読しましたが、特に『城山三郎の昭和』(角川書店)が印象に残っています。本書に啓発されて『大義の末』等、城山氏の戦争文学にも目を向けることとなりました。

本会十周年記念行事が浜松で開催された十二年前には一会員であった未熟者、今般の二十周年記念行事に少なからず関わる事になろうとは思いませんでした。昨年二月遷化された甘露寺先住藤田慈晃師と酒席を二緒すると、杯片手に屢々「それが縁と言うんじゃのう。」と仰っていたのを思い出します。(晋)

新流会のホームページができました。ぜひご覧ください。

<http://www.shinryukai.jp/>

“こころの豊かさ、こころのやすらぎ”が私たちの商品です。



メモリアルアートの大野屋

創業昭和 14 年

本 社	☎03-6863-4111	〒163-0638	東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル38F
関 西 支 社	☎0120-78-7777	〒530-0001	大阪府大阪市北区梅田1-11-4-1108 大阪駅前第四ビル11F
京 都 営 業 所	☎0120-31-7777	〒600-8234	京都市下京区油小路通塩小路下ル南不動堂町3 大道第一ビル 2F-A
北 大 阪 営 業 所	☎0120-30-7775	〒562-0027	大阪府箕面市石丸3-2-6
南 大 阪 営 業 所	☎0120-61-3388	〒585-0041	大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分851
和 歌 山 営 業 所	☎0120-10-4484	〒640-1251	和歌山県海草郡野上町国木原577-3
兵 庫 営 業 所	☎0120-70-0177	〒666-0033	兵庫県川西市栄町10-5 パルティ川西403
名 古 屋 支 店	☎0120-44-1888	〒470-0316	愛知県豊田市千鳥町梨ノ木258
名古屋支店・星が丘センター	☎0120-04-0874	〒464-0808	愛知県名古屋市千種区星が丘山手501